
日本赤十字社医療センター 公的医療機関等2025プラン

平成29年9月 策定
(平成30年3月 改定)



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

目次

| | |
|---------------------------------|----|
| ○日本赤十字社医療センターの基本情報 | 3 |
| 1. 現状と課題 | 5 |
| ①構想区域の現状 | 6 |
| ②構想区域の課題 | 12 |
| ③自施設の現状 | 14 |
| ④自施設の課題 | 30 |
| 2. 今後の方針 | 32 |
| ①地域において今後担うべき役割 | 33 |
| ②今後持つべき病床機能 | 34 |
| ③その他見直すべき点 | 34 |
| 3. 具体的な計画 | 35 |
| ①4機能ごとの病床のあり方について | 36 |
| ②診療科の見直しについて | 36 |
| ③その他の数値目標について | 37 |
| 4. その他(当院の主な活動) | 39 |
| ・ 主要疾患に関する取組み等(がん・脳卒中他) | 40 |
| ・ 地域医療に関する取組み等(救急医療・災害医療他) | 45 |
| ・ 国際活動に関する取組み等(国際救援・開発協力他) | 60 |
| ・ 人材の育成・確保に関する取組み等(臨床研修・看護師教育他) | 62 |

日本赤十字社医療センターの基本情報

○医療機関名

日本赤十字社医療センター

○開設主体

日本赤十字社

○所在地

東京都渋谷区広尾四丁目1番22号



院長 本間 之夫

○許可病床数・稼働病床数

| | | 許可病床数 (708床) | 稼働病床数 (708床) | 備考 |
|-------|-------|-----------------|-----------------|---------------|
| 病床の種別 | 一般 | 708床 | 708床 | 緩和ケア病棟18床を含む。 |
| | 療養 | - | - | |
| | 結核 | - | - | |
| | 精神 | - | - | |
| | 感染症 | - | - | |
| 病床機能別 | 高度急性期 | 320床 | 320床 | |
| | 急性期 | 370床 | 370床 | |
| | 回復期 | - | - | |
| | 慢性期 | 18床 | 18床 | 緩和ケア病棟18床が該当 |

○診療科目

糖尿病内分泌科、血液内科、化学療法科、感染症科、アレルギー・リウマチ科、腎臓内科、緩和ケア科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、メンタルヘルス科、呼吸器外科、乳腺外科、胃・食道外科、内視鏡診断治療科、肝胆膵・移植外科、大腸肛門外科、心臓血管外科、脊椎整形外科、骨・関節整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産科、婦人科、新生児科、小児科、小児保健、小児外科、麻酔科、集中治療科、放射線特殊治療科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急科、健康管理科、歯科・口腔外科

日本赤十字社医療センターの基本情報

○職員数(平成29年4月1日現在)

| | 医師(※1) | 看護職員 | 専門職 | 事務職員(※2) | 合計 |
|----------|--------|---------|-------|----------|---------|
| 常勤職員数(人) | 262 | 1,052 | 216 | 237 | 1,767 |
| 常勤換算数(人) | 283.1 | 1,056.1 | 217.6 | 250.6 | 1,807.3 |

※1 初期研修医(常勤職員数 38人、常勤換算数 38.0人)を含む。

※2 医師・看護職員・専門職以外の職員(事務職員、看護助手他)の職員数を掲載。

○認定・指定等

東京都救命救急センター

東京都地域救急医療センター

地域がん診療連携拠点病院

東京都総合周産期母子医療センター(母体救命対応総合周産期母子医療センター)

WHO(世界保健機関)・UNICEF(国際連合児童基金)認定「Baby-Friendly Hospital」(赤ちゃんにやさしい病院)

東京都脳卒中急性期医療機関

東京都地域災害拠点病院

東京DMAT指定病院

東京都エイズ診療協力病院(エイズ診療拠点病院)

第二種感染症指定医療機関

地域医療支援病院

臨床研修指定病院

臨床修練指定病院

臓器提供施設

非血縁者間骨髄採取施設・移植診療科

東京都CCUネットワーク加盟施設

日本医療機能評価機構認定施設(バージョン:3rdG:Ver.1.0、種別:一般病院2)

日本病院会・日本人間ドック学会/人間ドック・健診施設機能評価認定施設(バージョン:3.0)

日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度(I&A制度)認定施設

DPC II 群病院

7対1入院基本料

総合入院体制加算2

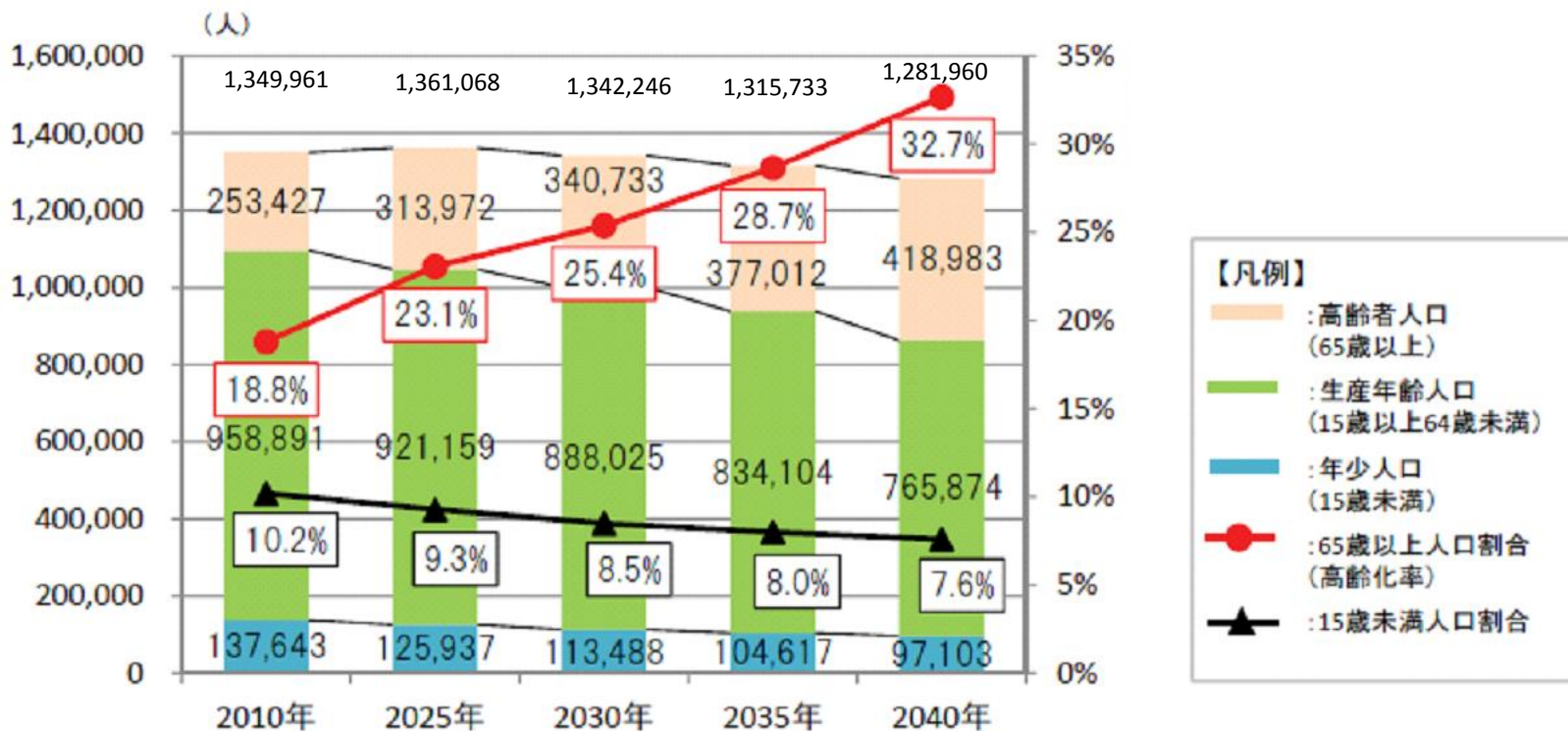
1. 現状と課題

- ① 構想区域の現状
- ② 構想区域の課題
- ③ 自施設の現状
- ④ 自施設の課題

1. 現状と課題 ①構想区域の現状

地域の人口にかかる将来推計

〈2010年から2040年までの区西南部の人口にかかる将来推計〉



出典：平成28年7月「東京都地域医療構想」第3章の3 構想区域別の状況（(3)区西南部）

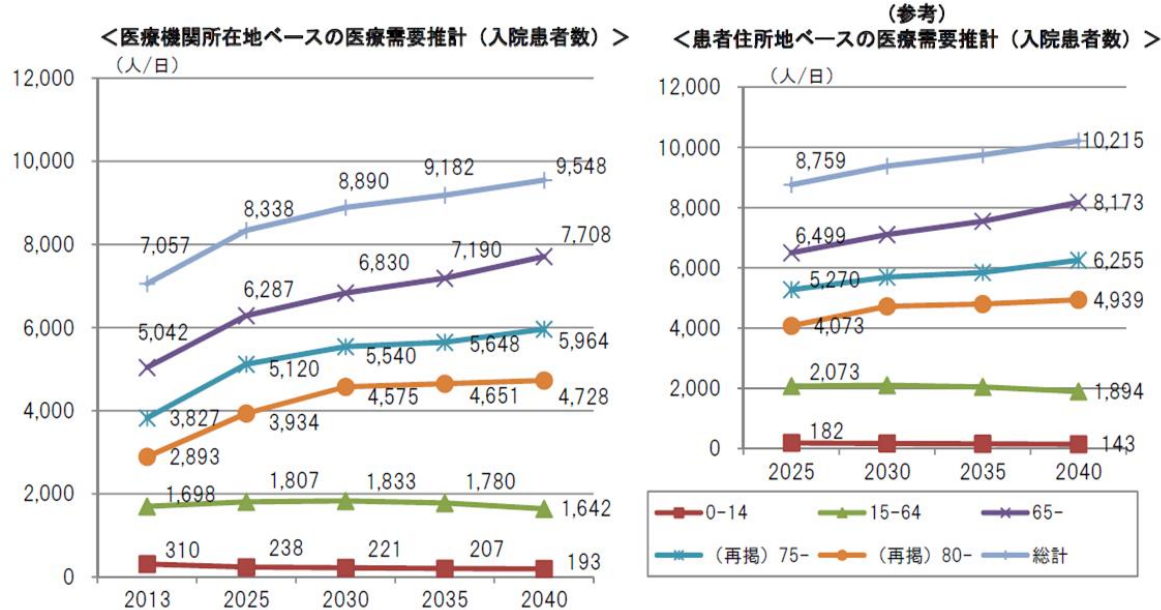
区西南部の総人口は、平成37年（2025年）には136万1千人になるが、平成52年（2040年）には128万1千人に減少すると推計されている。

一方、高齢者人口・高齢化率は、平成37年（2025年）には31万3千人・23.1%、平成52年（2040年）には41万8千人・32.7%に増加すると推計されている。

1. 現状と課題 ①構想区域の現状

医療需要の推計

〈医療需要推計(入院患者数)〉



注 平成25年(2013年)における医療需要は、医療機関所在地ベースにて算出されるため、患者住所地ベースの医療需要推計は平成37年(2025年)以降を掲載

出典:平成28年7月「東京都地域医療構想」第3章の3 構想区域別の状況((3)区西南部)

〈医療機関所在地ベースの医療需要推計(入院患者数)〉

高齢者数及び高齢化率の増加を背景に、高齢者(65歳以上)の入院患者数が2040年まで増加することが見込まれる。

一方、少子化の影響により、15歳未満の入院患者数は2040年まで漸減傾向が続き、15歳以上65歳未満の入院患者数は2030年まで増加するが、以降2040年まで減少することが見込まれる。

総じて、構想区域において、高齢化の傾向が強まることにより、2040年まで入院患者数(総計)が増加し、医療需要が増大することが予測される。

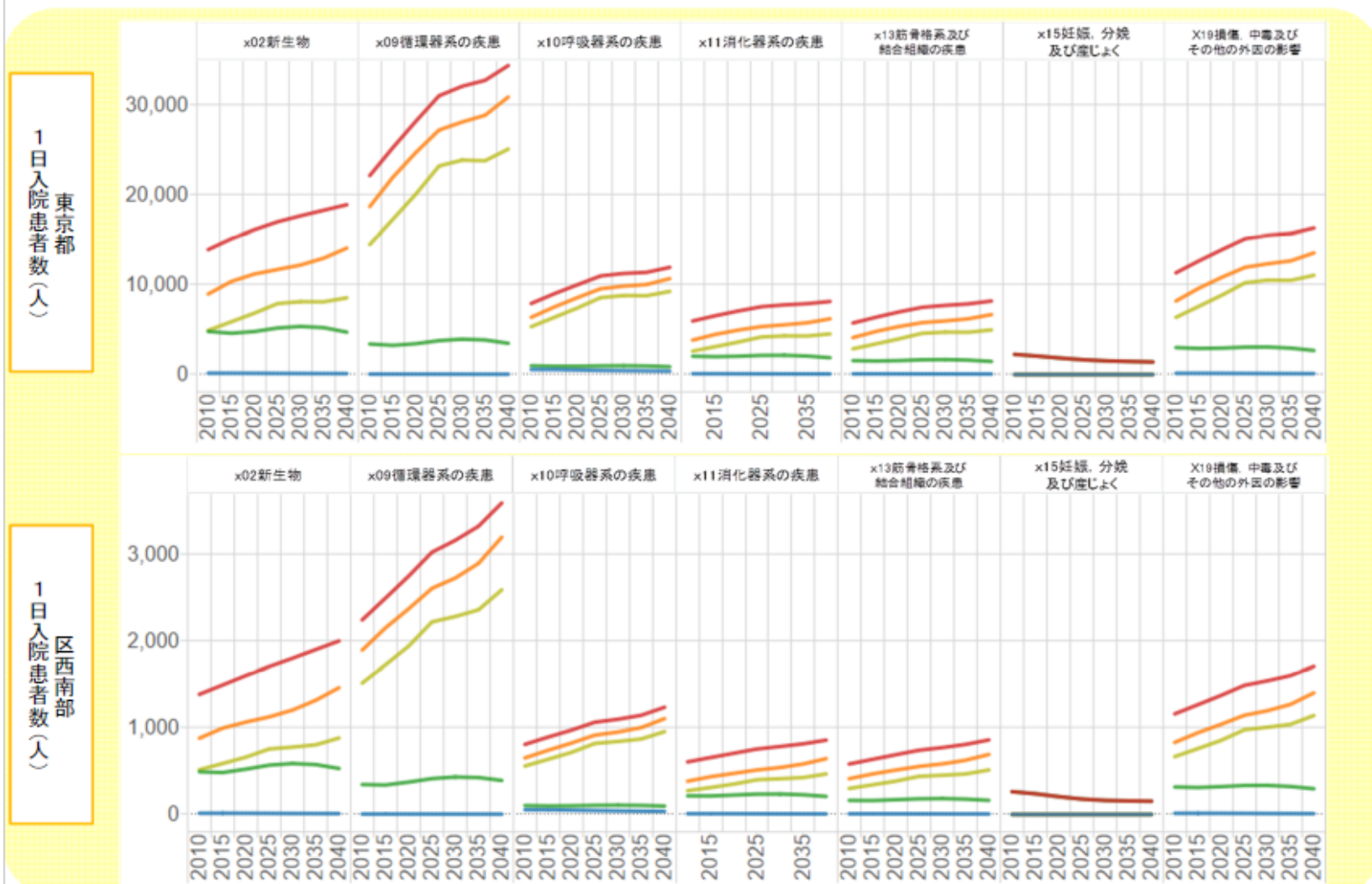
1. 現状と課題 ①構想区域の現状

疾患7領域別入院患者数の将来推計

疾患7領域別入院患者の将来推計（区西南部）

※グラフごとにメモリ数値が異なる。

総数/15歳未満/15-64歳/65歳以上/75歳以上(再掲)



出典：平成27年11月26日開催「第2回東京都地域医療構想策定に係る意見聴取の場」構想区域別資料(区西南部)

「15妊娠、分娩及び産じょく」以外の各疾患の領域において、2040年まで入院患者数の増加が見込まれる。

1. 現状と課題 ①構想区域の現状

病床等の状況

I 病床数 (平成26年10月1日現在) (床)

| 一般病床 | | 療養病床 | |
|-------|-----|-------|-----|
| 病院 | 診療所 | 病院 | 診療所 |
| 7,858 | 381 | 1,681 | 18 |

参考 (床)

| 精神病床 | 感染症病床 | 結核病床 |
|-------|-------|------|
| 1,307 | 10 | 27 |

II 主な入院基本料等別病床数(平成26年度病床機能報告より)

| 区西南部の届出状況 | 病床数 | (床) | |
|--------------------------------|-------|----------------|--------------|
| | | 区西南部 人口10万対 | 都内 人口10万対 |
| 特定機能病院一般病棟入院基本料 | 0 | 0.0 | 97.2 |
| 一般病棟7対1入院基本料 | 4,799 | 352.6 | 251.4 |
| 一般病棟10対1入院基本料 | 927 | 68.1 | 95.1 |
| 一般病棟13対1入院基本料 | 94 | 6.9 | 20.0 |
| 一般病棟15対1入院基本料 | 551 | 40.5 | 25.5 |
| 療養病棟入院基本料 ※1 | 1,012 | 374.9 | 456.1 |
| 療養型介護療養施設サービス費(介護療養病床として使用) ※2 | 208 | 77.1 | 101.5 |
| 障害者施設等入院基本料 | 238 | 17.5 | 30.9 |
| 特殊疾患入院医療管理料/入院料 | 0 | 0.0 | 2.0 |
| 回復期リハビリテーション病棟入院料 | 462 | 33.9 | 40.7 |
| 地域包括ケア病棟入院料/管理料 | 161 | 11.8 | 3.7 |
| 緩和ケア病棟入院料 | 18 | 1.3 | 3.7 |

※1は医療療養病床、※2は介護療養病床と読み替え。いずれも、人口10万対病床数は、高齢者人口を使用

出典:平成28年7月「東京都地域医療構想」第3章の3 構想区域別の状況((3)区西南部)

人口10万当たりの病床数は、一般病棟7対1入院基本料の病床基本料は、区西南部は都内平均よりも多い状況にある。一般病床10対1・13対1入院基本料、回復期リハビリテーション病棟入院料は都内平均よりも少ない状況にある。

1. 現状と課題 ①構想区域の現状

4機能ごとの医療提供体制の特徴

－自構想区域完結率－

| | 高度急性期機能 | | 急性期機能 | | 回復期機能 | | 慢性期機能 | |
|-------|---------|----------------------|-------|----------------------|-------|----------------------|-------|----------------------|
| | 自構想区域 | 自構想区域 +都内隣接 区域 | 自構想区域 | 自構想区域 +都内隣接 区域 | 自構想区域 | 自構想区域 +都内隣接 区域 | 自構想区域 | 自構想区域 +都内隣接 区域 |
| 区中央部 | 57.9% | 81.0% | 58.4% | 82.4% | 42.3% | 73.4% | 21.4% | 58.7% |
| 区南部 | 73.6% | 90.1% | 77.2% | 90.4% | 75.2% | 87.5% | 46.5% | 57.0% |
| 区西南部 | 56.3% | 91.6% | 62.3% | 91.2% | 61.4% | 88.0% | 43.0% | 57.9% |
| 区西部 | 59.3% | 85.7% | 63.7% | 85.9% | 56.2% | 77.5% | 32.0% | 58.3% |
| 区西北部 | 62.3% | 91.5% | 68.5% | 91.9% | 68.7% | 90.8% | 60.4% | 74.5% |
| 区東北部 | 47.6% | 87.5% | 62.0% | 90.4% | 68.3% | 89.4% | 66.5% | 76.1% |
| 区東部 | 52.8% | 84.3% | 66.0% | 87.5% | 64.9% | 84.7% | 38.0% | 57.8% |
| 西多摩 | 64.9% | 80.4% | 77.1% | 89.9% | 81.6% | 91.8% | 80.2% | 90.4% |
| 南多摩 | 58.3% | 72.0% | 69.3% | 79.4% | 70.8% | 80.2% | 70.6% | 80.1% |
| 北多摩西部 | 57.6% | 88.5% | 68.0% | 91.3% | 65.4% | 91.7% | 40.8% | 89.4% |
| 北多摩南部 | 69.8% | 88.2% | 70.6% | 90.0% | 68.3% | 90.8% | 40.9% | 83.8% |
| 北多摩北部 | 54.2% | 80.6% | 64.2% | 83.5% | 66.0% | 83.3% | 57.6% | 71.6% |
| 島しょ | - | - | 22.1% | 22.1% | 21.5% | 21.5% | - | - |

1. 現状と課題 ①構想区域の現状

4機能ごとの医療提供体制の特徴

高度急性期機能

- ・自構想区域完結率は56.3%だが、都内隣接区域を含めると91.6%で都内で最も高い。
- ・隣接する構想区域には、高度急性期機能が集積

急性期機能

- ・自構想区域完結率は62.3%だが、都内隣接区域を含めると91.3%と高い。
- ・高度急性期機能から継続して入院している患者も含め、隣接区域への流出が多い。

回復期機能

- ・自構想区域完結率は61.4%だが、都内隣接区域を含めると88.0%
- ・人口10万人当たりの回復期リハビリテーション病床数は、都平均の約8割
- ・流出患者数と流入患者数がほぼ均衡しており、流出入の傾向は急性期機能と同様

慢性期機能

- ・高齢者人口10万人当たりの医療療養病床数、介護療養病床数ともに都平均の約8割
- ・区西部や神奈川県との間での流出と流入がともに多い。

出典：平成28年7月「東京都地域医療構想」第3章の3 構想区域別の状況（(3)区西南部）

高度急性期・急性期・回復期の各機能別の病床の自構想区域の完結率が約6割で、都内隣接区域を含めると約9割になる。隣接区域に高度急性期機能が集積していることもあり、高度急性期、急性期の患者については隣接区域に流出している傾向がある。

1. 現状と課題 ①構想区域の課題

病床機能報告と必要病床数(将来推計)

| | (床) | | | | |
|-------|-------------|-----------|-----------|-----------|--------|
| | 高度急性期 機能 | 急性期 機能 | 回復期 機能 | 慢性期 機能 | 計 |
| 平成26年 | 1,500 | 6,010 | 711 | 1,655 | 9,876 |
| | 15.2% | 60.9% | 7.2% | 16.8% | 100.0% |
| 平成27年 | 745 | 5,645 | 1,148 | 1,493 | 9,031 |
| | 8.2% | 62.5% | 12.7% | 16.5% | 100.0% |
| 平成28年 | 1,194 | 6,152 | 1,052 | 1,537 | 9,935 |
| | 12.0% | 61.9% | 10.6% | 15.5% | 100.0% |
| 将来推計 | 1,492 | 3,710 | 3,080 | 1,701 | 9,983 |
| | 14.9% | 37.2% | 30.9% | 17.0% | 100.0% |

平成37年
(2025年)
必要病床数

※各年の病床機能報告結果に、休棟等と回答した病床数は含まない。

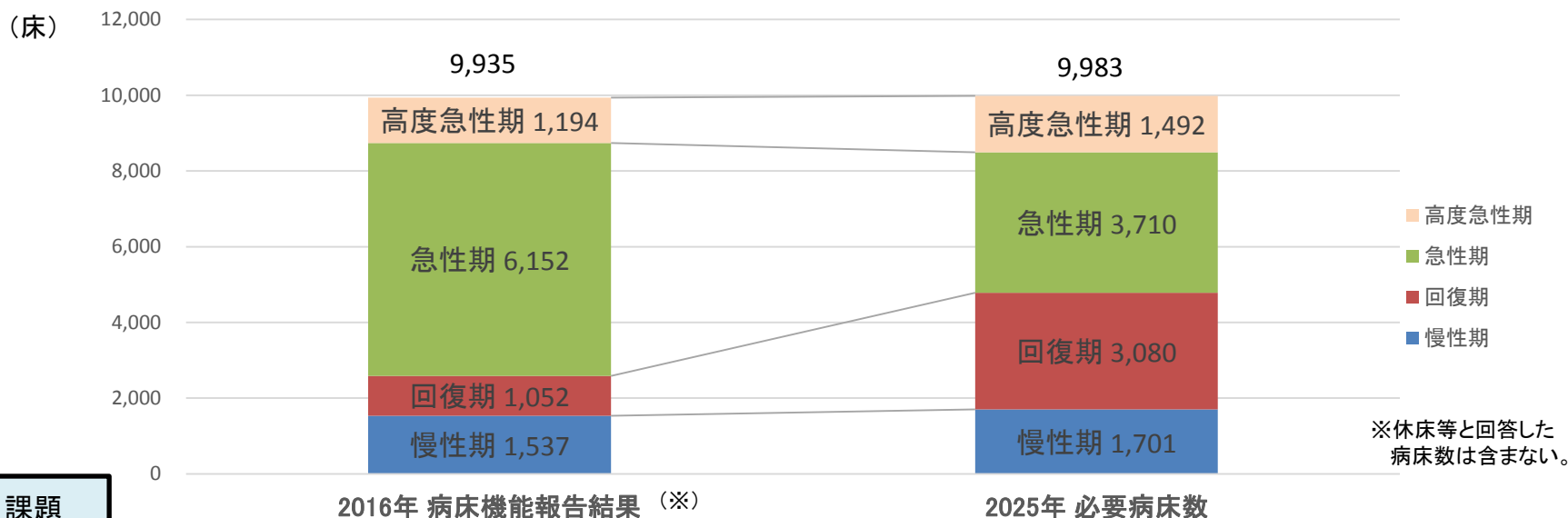
<H27→H28主な変動要因>

- 高度急性期機能(増) → 急性期からの機能変更
- 急性期機能(増) → 回復期からの機能変更
昨年度未報告病院の報告
- 回復期機能(減) → 急性期への機能変更
- 慢性期機能(増) → 増床

出典:平成29年6月1日開催「平成29年度第1回
東京都地域医療構想調整会議(区西南部)」構
想区域別資料・資料1 平成28年病床機能報告
結果(東京都/構想区域別)

1. 現状と課題 ①構想区域の課題

病床機能報告の病床数と必要病床数の比較を踏まえた課題



課題

病床機能報告結果と必要病床数の機能別病床数のギャップを踏まえ、構想区域内の医療施設において、機能分化・連携を適宜推進していくことが課題となるが、そのポイントとして以下のものがあげられる。

1. 高度急性期・急性期の病床の整備・活用

- (例)
- ・地域社会の高齢化に伴う医療ニーズ(がん、脳卒中、急性心筋梗塞等)に見合う高度急性期・急性期の病床の整備・活用

2. 回復期の病床(地域包括ケア病床等)の整備・活用

- (例)
- ・地域包括ケア病床によるポストアキュートへの対応体制の整備
 - ・レスパイト・急変時に対応可能な病床機能の整備

3. 慢性期の病床の整備・活用

- (例)
- ・在宅医との連携体制の整備
 - ・レスパイト・急変時に対応可能な病床機能の整備
 - ・緩和ケア病床の整備

【参考資料】

平成29年6月1日開催「平成29年度第1回東京都地域医療構想調整会議 (区西南部)」構想区域別資料・資料3 データ/アンケート等から見る構想区域の現状、資料4 課題整理(案)

1. 現状と課題 ③自施設の現状

基本理念・基本方針・ビジョン

基本理念

赤十字精神『人道・博愛』の実践



『人道・博愛』の赤十字精神を行動の原点として
治療のみならず
健康づくりから
より健やかな生涯生活の維持まで
トータルでの支援サービスを提供します



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

基本方針

1. 保健・医療・福祉ネットワークを基盤にした地域医療連携の推進に努めます
2. 高度な先進医療施設を目指します
3. 24時間365日対応できる救急医療の充実に努めます
4. 心のかよった、まごころ医療、まごころ看護サービスを提供します
5. 災禍に苦しむ人々への救護・救援体制を確保します
6. 教育研修施設として、医療人の生涯育成に寄与します

ビジョン

1. 社会の変化を先取りした病院運営を図ります
2. 周産期医療・がん診療・救急医療・災害救護をさらに拡充します
3. 快適療養環境と低侵襲な診断・治療を提供します
4. 地域医療連携を強化します
5. より適切な労働時間の配分に努めます
6. 持続可能性を担保する効率よい経営基盤を強化します

1. 現状と課題 ③自施設の現状

診療機能等 その1

【認定・指定等】

| |
|---|
| 東京都救命救急センター |
| 東京都地域救急医療センター |
| 地域がん診療連携拠点病院 |
| 東京都総合周産期母子医療センター(母体救命対応総合周産期母子医療センター) |
| WHO(世界保健機関)・UNICEF(国際連合児童基金)認定 「Baby-Friendly Hospital」(赤ちゃんにやさしい病院) |
| 東京都脳卒中急性期医療機関 |
| 東京都地域災害拠点病院 |
| 東京DMAT指定病院 |
| 東京都エイズ診療協力病院(エイズ診療拠点病院) |
| 第二種感染症指定医療機関 |
| 地域医療支援病院 |
| 臨床研修指定病院 |
| 臨床修練指定病院 |
| 臓器提供施設 |
| 非血縁者間骨髄採取施設・移植診療科 |
| 東京都CCUネットワーク加盟施設 |
| 日本医療機能評価機構認定施設(バージョン:3rdG:Ver.1.0、種別:一般病院2) |
| 日本病院会・日本人間ドック学会/人間ドック・健診施設機能評価認定施設(バージョン:3.0) |
| 日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度(I&A制度)認定施設 |
| DPC II 群病院 |
| 7対1入院基本料 |
| 総合入院体制加算2 |

1. 現状と課題 ③自施設の現状

診療機能等 その2

【診療科】

| | | | |
|-------------|----------|-------|------------|
| 糖尿病内分泌科 | メンタルヘルス科 | 皮膚科 | 集中治療科 |
| 血液内科 | 呼吸器外科 | 泌尿器科 | 放射線特殊治療科 |
| 化学療法科 | 乳腺外科 | 眼科 | 放射線診断科 |
| 感染症科 | 胃・食道外科 | 耳鼻咽喉科 | 放射線治療科 |
| アレルギー・リウマチ科 | 内視鏡診断治療科 | 産科 | リハビリテーション科 |
| 腎臓内科 | 肝胆膵・移植外科 | 婦人科 | 救急科 |
| 緩和ケア科 | 大腸肛門外科 | 新生児科 | 健康管理科 |
| 神経内科 | 心臓血管外科 | 小児科 | 歯科・口腔外科 |
| 呼吸器内科 | 脊椎整形外科 | 小児保健 | |
| 消化器内科 | 骨・関節整形外科 | 小児外科 | |
| 循環器内科 | 脳神経外科 | 麻酔科 | |

【各センター等】

| | | |
|------------------|--------------|---------|
| 周産母子・小児センター | 血液浄化センター | 輸血部 |
| MFICU(母体胎児集中治療室) | 血管内治療センター | 検査部 |
| NICU(新生児特定集中治療室) | 整形外科センター | 国内医療救護部 |
| GCU(新生児治療回復室) | 脳神経血管内治療センター | 国際医療救援部 |
| EICU(救急集中治療室) | サイバーナイフセンター | 化学療法室 |
| ICU(集中治療室) | 健康管理センター | 内視鏡室 |
| SCU(脳卒中ケアユニット) | MEセンター | 総合医療相談室 |
| PCU(緩和ケア病棟) | 中央手術部 | |
| リウマチセンター | 病理部 | |

【付属施設】

| |
|-------------------|
| 日本赤十字社医療センター附属乳児院 |
| 日本赤十字社助産師学校 |

1. 現状と課題 ③自施設の現状

医療機器

【医療機器(主なもの)】

| | | |
|-------------|------------------|--------------|
| 内視鏡 (※) | RI診断装置 | 眼底カメラ |
| PET-CT (※) | ガンマカメラ | 人工呼吸器 |
| MRI (※) | 乳房撮影装置(マンモグラフィー) | 除細動器 |
| ヘリカルCT (※) | X線テレビ装置 | レーザー結石破碎装置 |
| SPECT (※) | デジタルラジオグラフ | 人工心肺 |
| 超音波診断装置 (※) | 自動血液ガス分析装置 | リニアック |
| 内視鏡下手術用ロボット | 自動血球計数装置 | IABP駆動装置 |
| サイバーナイフ | 自動生化学分析装置 | 人工腎臓(透析)装置 |
| 血管連続撮影装置 | ホルター心電計 | マイクロサージャリー装置 |
| シネアンギオ | 呼吸機能検査 | |
| 骨塩量測定装置 | トレッドミル | |

※地域医療機関が共同利用できる医療機器



PET-CT



内視鏡下手術用ロボット



サイバーナイフ

高度医療に必要な医療機器を整備するとともに、大型医療機器等、地域の医療機関が共同利用できる体制も設けている。

1. 現状と課題 ③自施設の現状

入院基本料・平均在院日数・病床稼働率

【入院基本料】

7対1入院基本料

【平均在院日数】

11.6日(平成28年度実績)

算式:(過去1年間の在院患者延日数)÷((過去1年間の新入院患者数+過去1年間の新退院患者数)÷2)

※在院患者延日数は、毎日24時現在に入院中の患者数をいい、退院又は死亡した患者数を含まない。

※新入院患者数は、新たに入院した患者数(入院してその日のうちに退院又は死亡した患者を含む)とすること。

※新退院患者数は、新たに退院した患者数(入院してその日のうちに退院又は死亡した患者を含む)とすること。

※一般病棟入院基本料の施設基準の要件となっている平均在院日数ではない。

【病床稼働率】

90.3%(平成28年度実績)

算式:((入院患者延数÷(実働病床数×診療実日数))×100



1. 現状と課題 ③自施設の現状

職員数

【職員数(平成29年4月1日現在)】

(人)

| 職種 | 常勤職員 | 常勤換算 |
|-------------|-------|---------|
| 医師 | 161 | 181.7 |
| 歯科医師 | 1 | 1.4 |
| 専修医 | 15 | 15.0 |
| 後期研修医 | 47 | 47.0 |
| 初期研修医 | 38 | 38.0 |
| ・医師(合計)…A | 262 | 283.1 |
| 助産師 | 238 | 239.3 |
| 保健師 | 3 | 3.0 |
| 看護師 | 811 | 813.7 |
| ・看護職員(合計)…B | 1,052 | 1,056.1 |
| 薬剤師 | 43 | 43.0 |
| 臨床検査技師 | 64 | 65.2 |
| 診療放射線技師 | 42 | 42.0 |
| 言語聴覚士 | 2 | 2.0 |
| 理学療法士 | 13 | 13.0 |
| 作業療法士 | 4 | 4.0 |
| 視能訓練士 | 5 | 5.0 |
| 歯科衛生士 | 2 | 2.0 |
| 栄養士 | 8 | 8.0 |
| 心理判定士 | 6 | 6.5 |
| 臨床工学技士 | 21 | 21.0 |
| 保育士 | 6 | 6.0 |
| ・専門職(合計)…C | 216 | 217.6 |

(人)

| 職種 | 常勤職員 | 常勤換算 |
|---------------|-------|---------|
| 事務職員 | 167 | 178.1 |
| 医療社会事業司 | 9 | 9.0 |
| 電気技士 | 1 | 1.0 |
| 看護助手 | 49 | 50.5 |
| メッセンジャー | 7 | 7.0 |
| 営繕 | 1 | 1.0 |
| 環境物品管理 | 1 | 1.0 |
| SPD | 2 | 2.0 |
| その他 | 0 | 1.0 |
| ・事務職員(合計)…D | 237 | 250.6 |
| | | |
| ・総計(=A+B+C+D) | 1,767 | 1,807.3 |



1. 現状と課題 ③自施設の現状

病床機能・自施設の担う政策医療等

【病床機能の現状】

- ・直近の病床機能報告(平成28年10月提出)は下記のとおりであり、高度急性期・急性期が中心であること。

| | 病床数(床) | 備考 |
|-------|--------|--------------|
| 高度急性期 | 320床 | |
| 急性期 | 370床 | |
| 回復期 | - | |
| 慢性期 | 18床 | 緩和ケア病棟18床が該当 |
| 合計 | 708床 | |

【自施設の担う政策医療等】

- ・赤十字病院は公的病院として、5疾病5事業に積極的に対応しており、当院では、「ビジョン」に示すように、特に周産期医療・がん診療・救急医療・災害救護の拡充を図っている。
(総合周産期 母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、地域災害拠点病院の機能を有す。)
- ・在宅医療については、訪問看護ステーションを中心に対応している。

※各事業の内容・実績等については、「4. その他」を参照。

【周産期医療における関係機関との連携 その1】

○スーパー総合周産期センター

当センターは、東京都から「母体救命対応総合周産期母子医療センター」(いわゆる「スーパー総合周産期センター」)の指定を受けている。

同センターでは、重篤な疾患により緊急に母体救命処置が必要な妊産褥婦さんが発生し、近くの救急医療機関等で受け入れが決まらない場合に、必ず患者さんを受け入れ、院内の救命救急センターをはじめ各診療科と密接な連携をとりながら治療を行っている。

当院は、平成21年の「東京都母体救命搬送システム」創設と同時にスーパー総合周産期センターの指定を受けている。

(関連設備)

MFICU(母体・胎児集中治療室)



GCU(回復期治療室・強化治療室)



緊急の帝王切開にも
迅速に対応できる分娩手術室



「東京都母体救命搬送システム」に基づき地域の産科施設、各消防本部等と連携し、スーパー総合周産期センターとして、地域の周産期医療の「最後の砦」として日夜診療にあたっている。

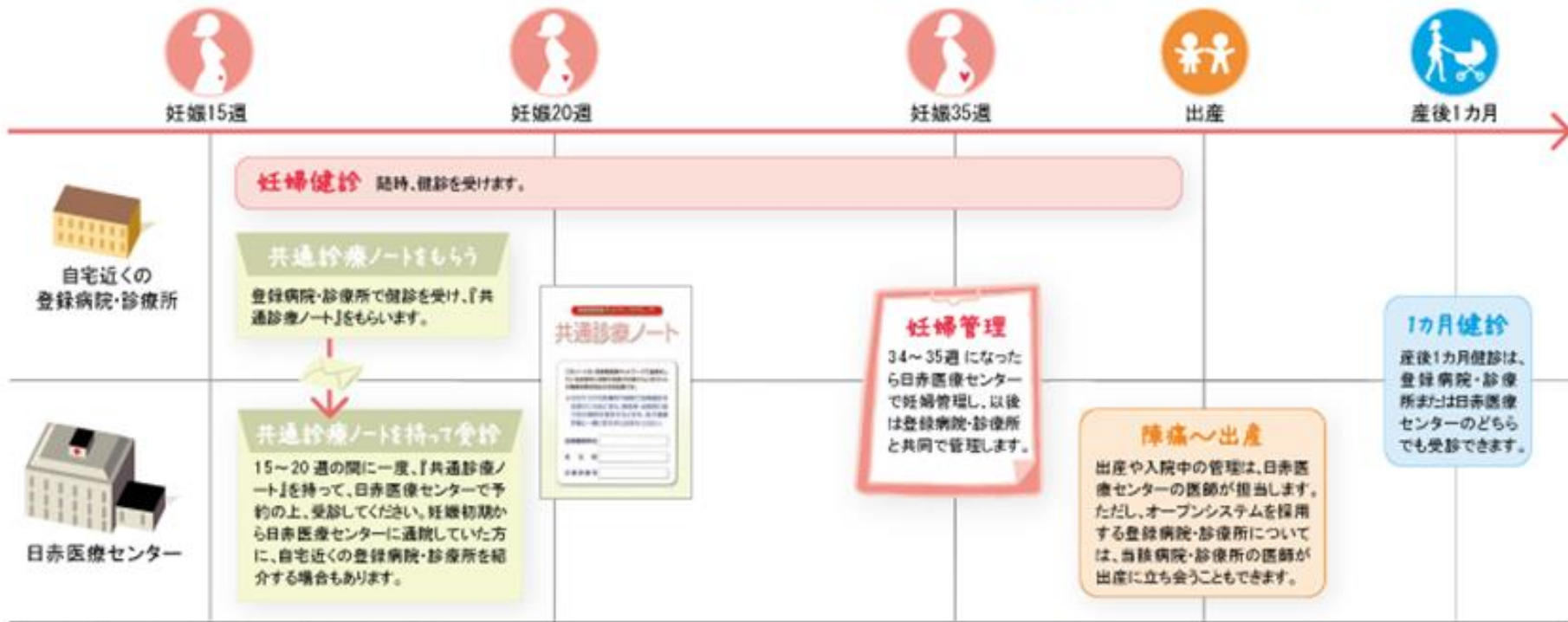
1. 現状と課題 ③自施設の現状

他機関との連携

【周産期医療における関係機関との連携 その2】

周産期医療ネットワーク

オープン(セミオープン)システムの仕組み



【登録医療機関一覧(区西南部)】

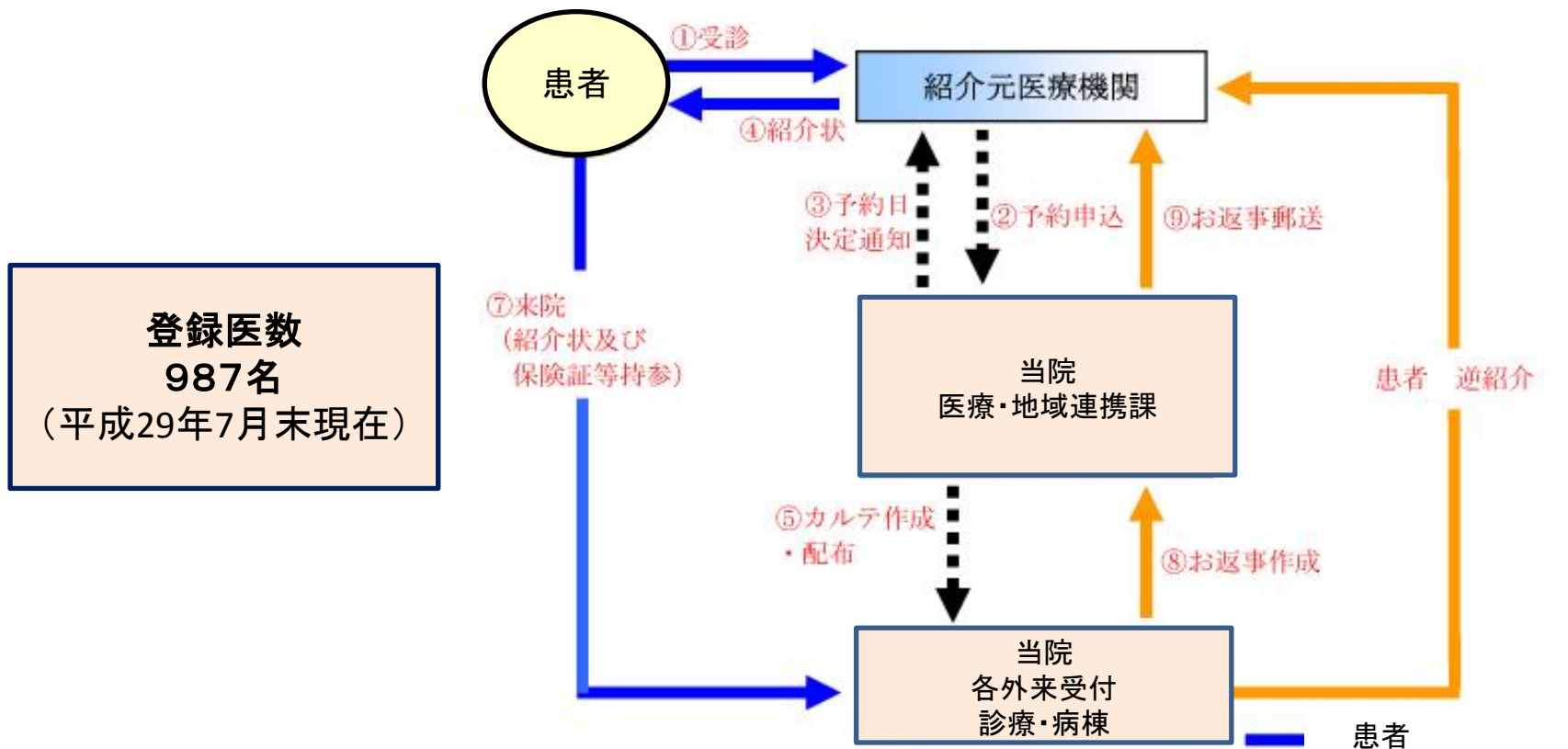
| | | | | | |
|--------------------------------------|------------------|-----|------------------|------|-------------------|
| 渋谷区 | けい子レディースクリニック表参道 | 目黒区 | あんどうレディスクリニック | 世田谷区 | 池ノ上産婦人科医院 |
| | 篠原クリニック | | かおりレディースクリニック | | 菊池産婦人科 |
| | 新宿ウイメンズクリニック | | 小西醫院 | | 三軒茶屋メリーレディースクリニック |
| | たはらレディースクリニック | | 平田クリニック | | にしなレディースクリニック |
| | ともこレディースクリニック表参道 | | 森田レディスクリニック | | 冬城産婦人科医院 |
| | 広尾レディース | | 都立大レディースクリニック | | 依田産婦人科 |
| | フェニックスメディカルクリニック | | 祐天寺ウイメンズヘルスクリニック | | 用賀レディースクリニック |
| | よよぎ女性診療所 | | | | |
| | 広尾まきレディスクリニック | | | | |
| | 上原医院 | | | | |
| 周産期医療ネットワークにより、基幹病院として地域医療機関を支援している。 | | | | | |

1. 現状と課題 ③自施設の現状

他機関との連携

【地域医療連携】

当院は、平成24年9月28日付で「地域医療支援病院」の承認を受けた。日本医師会及び東京都医師会の病診連携システム推進の方針に基づき「登録医制度」を実施し、「病診・病病連携」を推進している。



地域の基幹病院として、地域医療連携に取り組み、地域医療の充実と効率的な医療提供体制の整備を推進している。

■ 患者
■ ■ ■ 医療・地域連携課
■ 診療情報提供書

1. 現状と課題 ③自施設の現状

平成29年度DPC係数(機能評価係数Ⅱ)

【平成29年度DPC係数(機能評価係数Ⅱ)】

| | | |
|-----------|--------------------|--------------------|
| 当院の係数(合計) | 全国DPCⅡ群病院における順位 | 東京都DPCⅡ群病院における順位 |
| | (当該病院 係数平均 0.0673) | (当該病院 係数平均 0.0671) |
| 0.0794 | 10位／140施設 | 2位／20施設 |

〈当院の平成29年度DPC係数(内訳)〉

| 係数 | 平成29年度 | 東京都内 DPCⅡ群病院 における順位 | 考え方 |
|---------|---------|---------------------------|---------------------------------------|
| 保険診療係数 | 0.00795 | 5位/20位 | 質が遵守されたDPCデータの提出を含めた適切な保険診療実施・取り組み・公表 |
| 効率性係数 | 0.01173 | 4位/20位 | 在院日数短縮の努力を評価 |
| 複雑性係数 | 0.00961 | 8位/20位 | 患者構成の差を1入院当たり点数で評価 |
| カバー率係数 | 0.00916 | 4位/20位 | さまざまな疾患に対応できる総合的な体制を評価 |
| 救急医療係数 | 0.00956 | 10位/20位 | 救急医療(緊急入院)の対象となる患者治療に要する資源投入量の乖離を評価 |
| 地域医療係数 | 0.00465 | 7位/20位 | 地域医療への貢献を評価 |
| 後発医薬品係数 | 0.00949 | 1位/20位 | 入院医療に用いる後発医薬品の使用を評価 |
| 重症度係数 | 0.01727 | 1位/20位 | 診断群分類点数表で表現しきれない患者の重症度の乖離率を評価 |
| 合計 | 0.0794 | 2位/20位 | |

※平成29年5月24日開催「平成29年度第1回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会」【参考資料】H29年度機能評価係数Ⅱから作成

当院は、DPCⅡ群病院(大学病院本院に準ずる機能を有する病院)であり、当該病院群の中において機能評価係数Ⅱの数値は上位にあり、急性期病院として高機能を発揮していることが確認できる。

1. 現状と課題 ③自施設の現状

医療提供体制 (急性期医療にかかる体制等)

| | 救命救急センター | こども救命センター | 指定二次救急医療機関 | 小児救急医療機関 | 災害拠点病院 | CCU医療機関 | 脳卒中 | t-PA | | がん | 小児がん | 周産期センター | 周産期連携病院 |
|-------|----------|-----------|------------|----------|--------|---------|------|------|-------|-----|------|---------|---------|
| | | | | | | | | | | | | | |
| 区南部 | 2 | 0 | 19 | 3 | 7 | 6 | 11 | 10 | 区南部 | 3 | 1 | 2 | 0 |
| 区西南部 | * 3 | 1 | * 25 | * 4 | * 6 | * 6 | * 13 | * 13 | 区西南部 | * 3 | 1 | * 2 | 1 |
| 区西部 | 3 | 0 | 23 | 5 | 11 | 10 | 14 | 14 | 区西部 | 3 | 1 | 4 | 0 |
| 区西北部 | 2 | 1 | 34 | 7 | 8 | 8 | 19 | 12 | 区西北部 | 3 | 1 | 3 | 3 |
| 区東北部 | 1 | 0 | 28 | 4 | 7 | 7 | 22 | 11 | 区東北部 | 1 | 0 | 2 | 1 |
| 区東部 | 1 | 0 | 28 | 4 | 8 | 4 | 20 | 12 | 区東部 | 2 | 0 | 2 | 1 |
| 西多摩 | 1 | 0 | 7 | 1 | 3 | 1 | 4 | 4 | 西多摩 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 南多摩 | 2 | 0 | 20 | 7 | 8 | 5 | 16 | 11 | 南多摩 | 2 | 0 | 1 | 1 |
| 北多摩西部 | 1 | 0 | 10 | 3 | 2 | 3 | 8 | 5 | 北多摩西部 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 北多摩南部 | 3 | 1 | 14 | 4 | 4 | 6 | 9 | 6 | 北多摩南部 | 3 | 2 | 4 | 1 |
| 北多摩北部 | 1 | 0 | 12 | 2 | 4 | 3 | 6 | 6 | 北多摩北部 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 島しょ | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 島しょ | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東京都 | 26 | 4 | 241 | 52 | 80 | 70 | 159 | 117 | 東京都 | 35 | 13 | 28 | 10 |

—注—

CCU医療機関

：東京都CCUネットワーク加盟施設

脳卒中

：東京都脳卒中急性期医療機関

t-PA

：超急性期の脳梗塞治療で、t-PA製剤の投与による血栓溶解療法の実施に必要な体制をとることが可能な医療機関

がん

：都道府県がん診療連携拠点病院
地域がん診療連携拠点病院
地域がん診療病院
東京都がん診療連携拠点病院

小児がん

：小児がん拠点病院
東京都小児がん拠点病院

周産期センター

：東京都総合周産期母子医療センター
東京都地域周産期母子医療センター

周産期連携病院

：周産期母子医療センターとの連携の下、ミドルリスクの妊産婦に対応する病院

＜東京都福祉保健局調べ（平成28年4月1日現在）＞

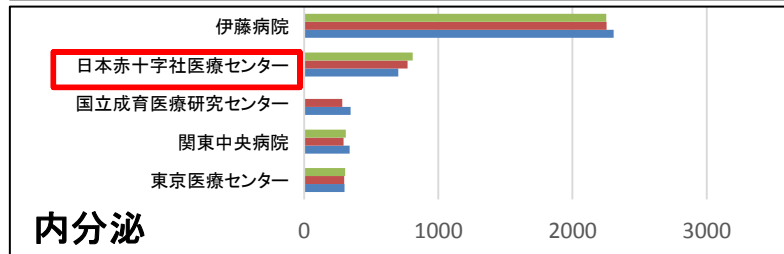
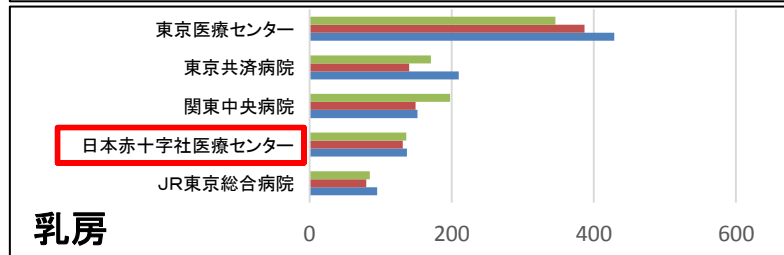
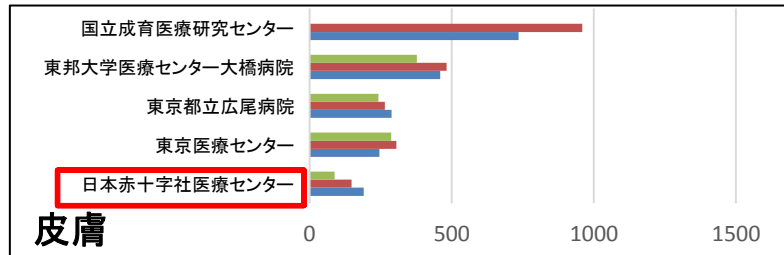
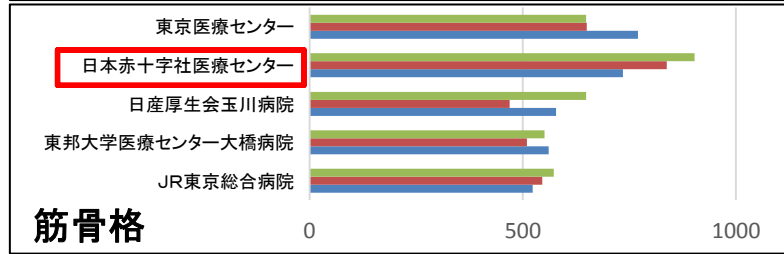
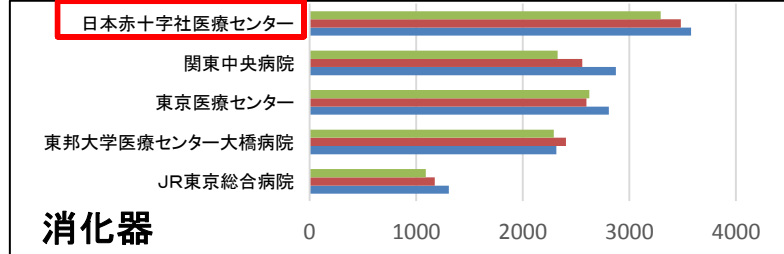
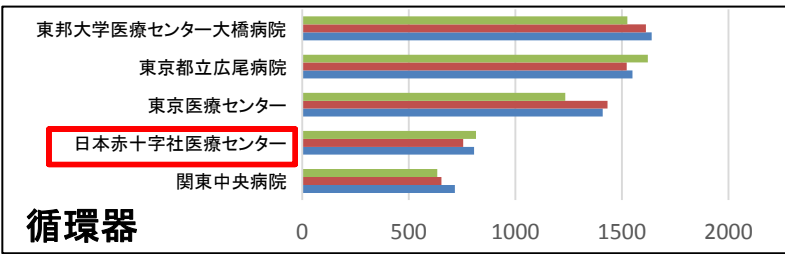
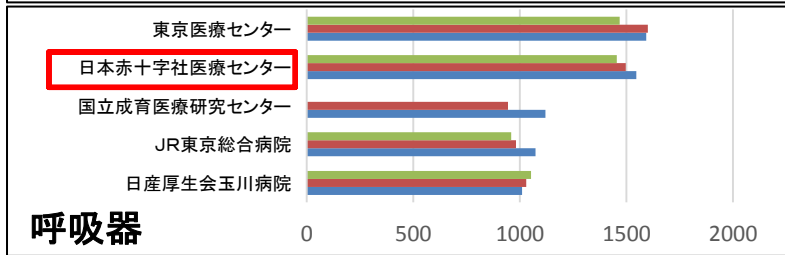
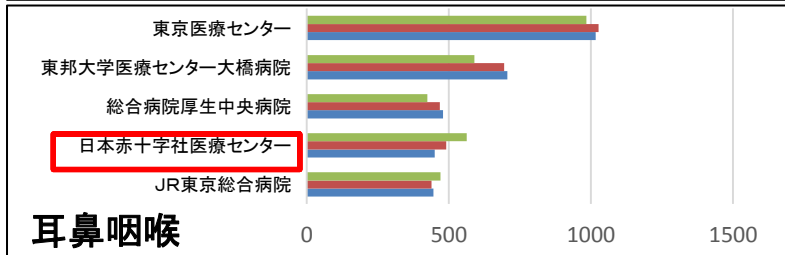
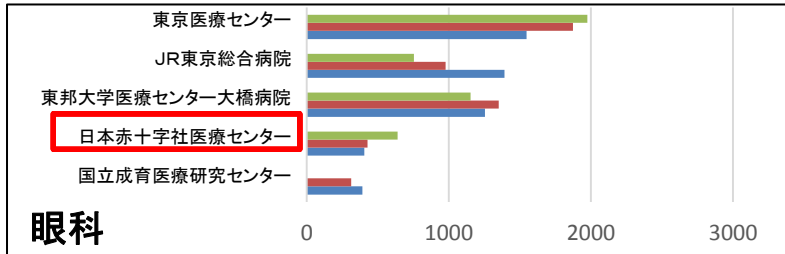
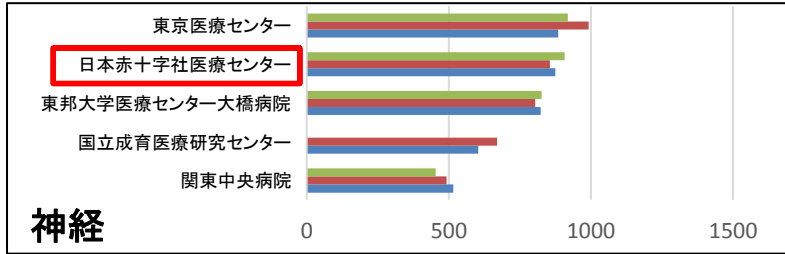
出典：出典：平成28年7月「東京都地域医療構想」巻末資料

*** 当院において整備されている医療提供体制**

当院は、地域の中核病院として、急性期医療にかかる体制は充実している。

1. 現状と課題 ③自施設の現状

区西南部 MDC別患者数 その1 【平成25年度～平成27年度(2013年度～2015年度)】

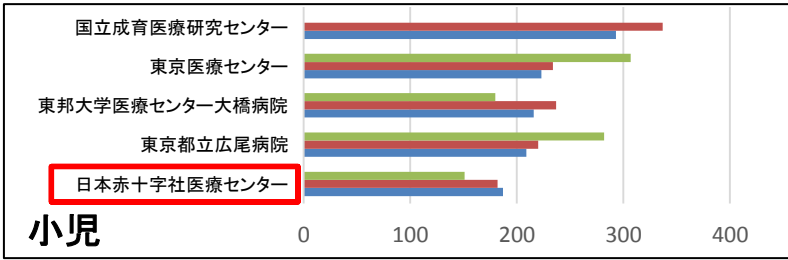
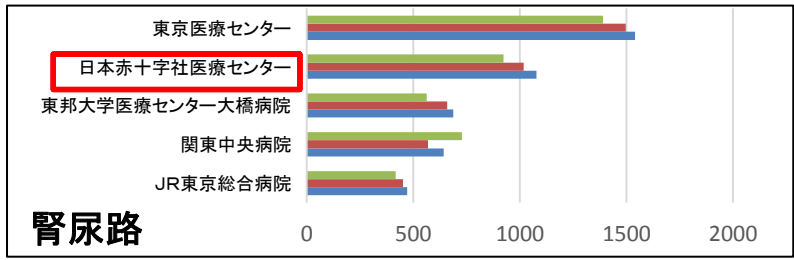


■ 2013年度
■ 2014年度
■ 2015年度

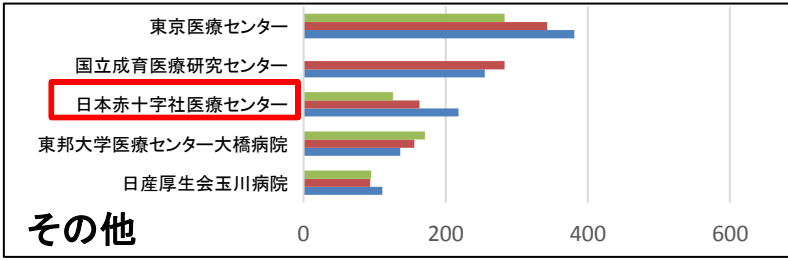
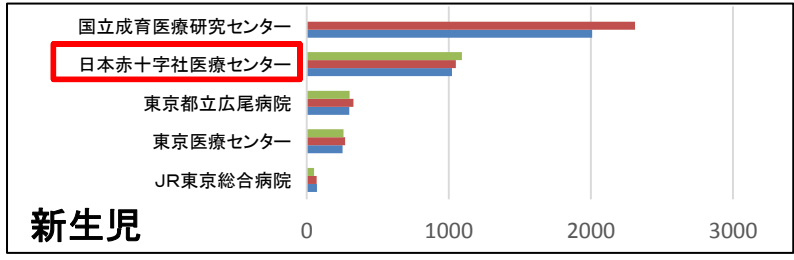
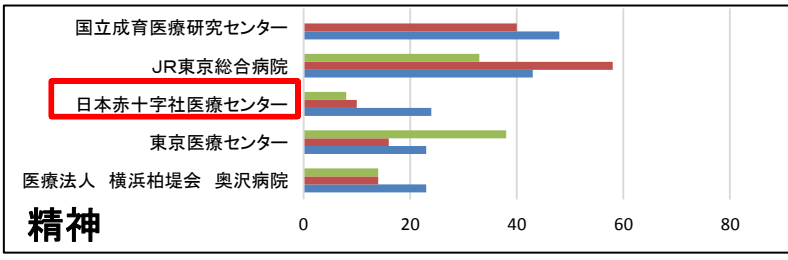
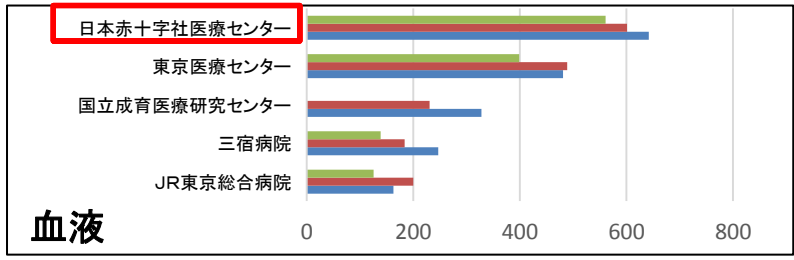
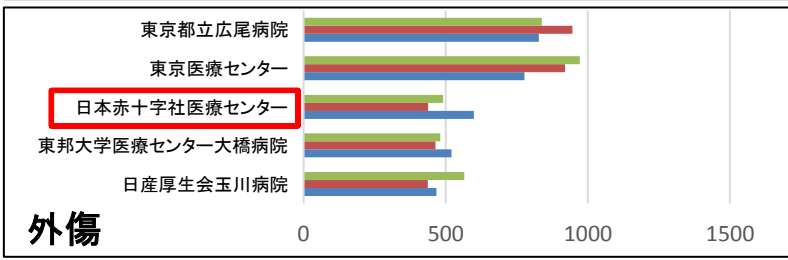
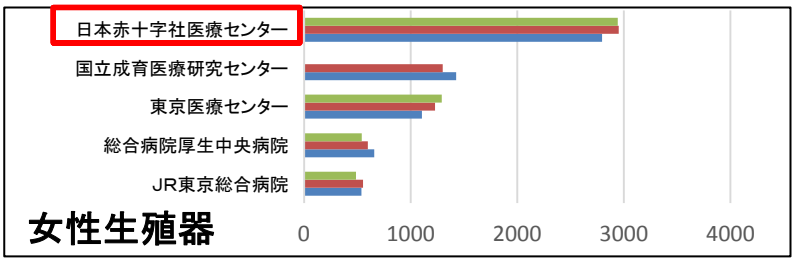
※グラフは、平成29年2月9日開催「平成28年度第4回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会」(厚生労働省)にかかる公開データ(DPCデータ)から作成

1. 現状と課題 ③自施設の現状

区西南部 MDC別患者数 その2 【平成25年度～平成27年度(2013年度～2015年度)】



■ 2013年度
■ 2014年度
■ 2015年度

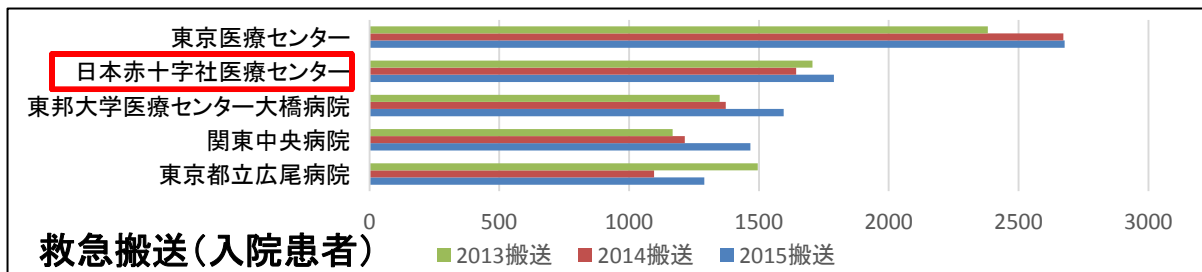
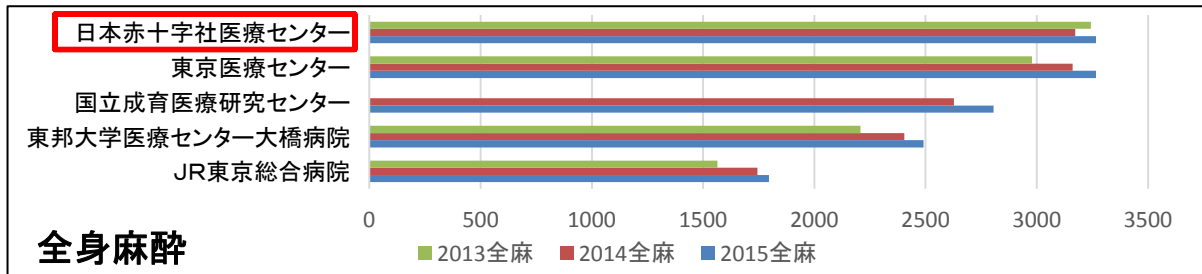
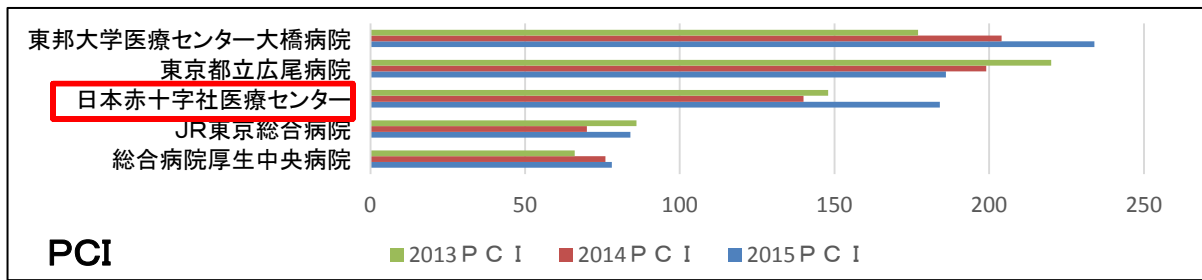
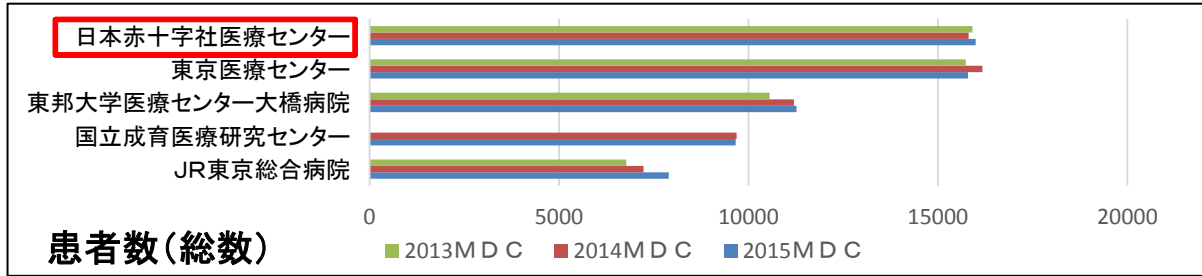


※グラフは、平成29年2月9日開催「平成28年度第4回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会」(厚生労働省)にかかる公開データ(DPCデータ)から作成

区西南部のDPC対象病院において、MDC別患者数では、当院が上位に入るケースが多い。特に、神経系、呼吸器系、消化器系、筋骨格系、女性生殖器系の患者数は多い。

1. 現状と課題 ③自施設の現状

区西南部 患者数(総数)等
【平成25年度～平成27年度(2013年度～2015年度)】



・患者数(総数)については、当院は区西南部においてトップクラスである。

・PCIについては、当院は近年件数を大きく伸ばしてきており、今後の増加も期待できる。

・全身麻酔については、当院は区西南部ではトップクラスである。

・救急搬送(入院患者)については、東京医療センターに次ぐ2位であり、今後の救急医療の取組みの拡充により、増加が期待できる。

1. 現状と課題 ③自施設の現状

経営状況(平成24年度～平成28年度)

収支金額単位:千円

| | | 平成24年度 | 増減率 (%) | 平成25年度 | 増減率 (%) | 平成26年度 | 増減率 (%) | 平成27年度 | 増減率 (%) | 平成28年度 | 増減率 (%) |
|---------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------|
| 医 業 収 益 | 入院診療収益 | 17,432,851 | 4.3 | 18,077,263 | 3.7 | 18,260,211 | 1.0 | 18,142,207 | -0.6 | 18,117,976 | -0.1 |
| | 室料差額収益 | 1,645,903 | -1.5 | 1,637,223 | -0.5 | 1,741,919 | 6.4 | 1,661,241 | -4.6 | 1,646,391 | -0.9 |
| | 外来診療収益 | 8,007,664 | 12.9 | 8,453,471 | 5.6 | 9,148,575 | 8.2 | 10,527,395 | 15.1 | 10,432,323 | -0.9 |
| | 保健予防活動収益 | 835,046 | 6.0 | 934,674 | 11.9 | 1,054,517 | 12.8 | 1,063,518 | 0.9 | 1,045,233 | -1.7 |
| | 保険等査定減 | -142,782 | 35.4 | -137,960 | -3.4 | -182,904 | 32.6 | -194,831 | 6.5 | -151,808 | -22.1 |
| | 医業収益 | 28,058,540 | 6.2 | 29,360,463 | 4.6 | 30,344,049 | 3.4 | 31,627,331 | 4.2 | 31,503,167 | -0.4 |
| 医 業 費 用 | 材料費 | 7,501,471 | 6.9 | 8,356,353 | 11.4 | 9,149,638 | 9.5 | 10,530,842 | 15.1 | 10,315,767 | -2.0 |
| | (再掲)医薬品費 | 5,123,948 | 10.9 | 5,655,434 | 10.4 | 6,273,403 | 10.9 | 7,573,749 | 20.7 | 7,336,048 | -3.1 |
| | (再掲)診療材料費 | 2,225,397 | 0.7 | 2,501,688 | 12.4 | 2,629,994 | 5.1 | 2,708,750 | 3.0 | 2,724,967 | 0.6 |
| | 給与費 | 13,663,475 | 2.0 | 13,756,413 | 0.7 | 14,133,756 | 2.7 | 14,299,177 | 1.2 | 14,418,000 | 0.8 |
| | 委託費 | 2,406,860 | 4.7 | 2,647,665 | 10.0 | 2,824,854 | 6.7 | 2,787,316 | -1.3 | 2,781,996 | -0.2 |
| | 設備関係費 | 2,433,442 | 0.0 | 2,456,129 | 0.9 | 2,406,075 | -2.0 | 2,453,572 | 2.0 | 2,408,793 | -1.8 |
| | (再掲)減価償却費 | 1,751,062 | -1.9 | 1,767,096 | 0.9 | 1,654,920 | -6.3 | 1,663,148 | 0.5 | 1,623,262 | -2.4 |
| | 研究研修費 | 64,131 | 13.0 | 54,341 | -15.3 | 73,618 | 35.5 | 77,477 | 5.2 | 75,770 | -2.2 |
| | 経費 | 1,151,051 | -2.9 | 1,131,852 | -1.7 | 1,159,967 | 2.5 | 1,108,823 | -4.4 | 1,049,394 | -5.4 |
| 医業費用 | 27,220,433 | 3.2 | 28,402,756 | 4.3 | 29,747,910 | 4.7 | 31,257,210 | 5.1 | 31,049,723 | -0.7 | |
| 医療事業利益(医業収支) | 838,107 | — | 957,707 | — | 596,138 | — | 370,121 | — | 453,443 | — | |
| 総収入 | 29,919,288 | 6.6 | 30,908,571 | 3.3 | 31,927,249 | 3.3 | 33,153,735 | 3.8 | 33,079,605 | -0.2 | |
| 総支出 | 29,309,023 | 4.3 | 29,569,265 | 0.9 | 31,091,005 | 5.1 | 32,611,840 | 4.9 | 32,313,742 | -0.9 | |
| 当期純利益(総収支) | 610,265 | — | 1,339,306 | — | 836,244 | — | 541,894 | — | 765,862 | — | |
| 患者数 | 入院診療延数(人) | 241,856 | 1.4 | 240,433 | -0.6 | 239,711 | -0.3 | 236,144 | -1.5 | 233,431 | -1.1 |
| | 外来診療延数(人) | 475,308 | 3.9 | 479,987 | 1.0 | 468,039 | -2.5 | 467,187 | -0.2 | 457,540 | -2.1 |
| 診療単価 | 入院診療単価(円) | 72,079 | 2.8 | 75,186 | 4.3 | 76,175 | 1.3 | 76,826 | 0.9 | 77,615 | 1.0 |
| | 外来診療単価(円) | 16,847 | 8.6 | 17,611 | 4.5 | 19,546 | 11.0 | 22,533 | 15.3 | 22,800 | 1.2 |
| 病床稼働率 | 93.7% | — | 93.0% | — | 92.8% | — | 91.1% | — | 90.3% | — | |

過去5カ年において、医業収支、総収支とも黒字基調にある。経営の健全性の維持により、当院の高い医療機能が確保されている。

【構想区域の現状】

○医療需要の増加

区西南部の全体的な傾向として、高齢化の進展に伴い医療需要は高まり、入院患者数(総計)は2040年まで増加することが見込まれる。

【構想区域の課題】

○医療機関の機能分化・連携

区西南部の病床機能報告の病床数と必要病床数と比較すると、各病床機能の病床数にギャップがあることが認められ、今後、機能分化・連携を適宜推進することが課題になると考えられる。

【自施設の現状】

○自施設の担う政策医療等

当院は地域の基幹病院であり、救命救急センター、地域医療支援病院、母体救命対応総合周産期母子医療センター(いわゆる「スーパー総合周産期センター」)、がん診療連携拠点病院、災害拠点病院等の機能を有し、公的医療機関として、救急医療、地域医療、周産期医療、がん医療、災害医療等を推進している。

○構想区域内における自施設の診療実績

上記の医療提供の推進を通じて、高度医療を提供する体制が整備され、区西南部において患者数はトップクラスである。MDC別の患者数でも、当院が上位に入るケースが多く、特に、神経系、呼吸器系、消化器系、筋骨格系、女性生殖器系の患者数は多い。

○地域の基幹病院(急性期病院)としての効率的・効果的な医療提供の推進

今後の構想区域の医療需要の増大とともに、当院がこれまで構築してきた基幹病院(急性期病院)としての医療提供体制及びそれに基づく診療実績を踏まえ、これまでの体制を基盤に、当院の特徴を最大限に生かし、公的医療機関の役割を果たすとともに、より効率的・効果的な医療提供を推進していくことが必要と考えられる。

○構想区域内の機能分化・連携の推進

病床機能報告結果と必要病床数の機能別病床数のギャップを踏まえ、当院においては、急性期の体制を軸にその機能の明確化を図り、地域の医療機関とともに適宜機能分化・連携を推し進めていくことが課題になると考えられる。

○健全経営の維持

上記の医療提供にかかる今後の持続可能性の確保に向けて、健全経営を維持する。

2. 今後の方針

- ①地域において今後担うべき役割
- ②今後持つべき病床機能
- ③その他見直すべき点

2. 今後の方針 ①地域において今後担うべき役割

①地域において今後担うべき役割

○急性期医療の推進

- ・当院がこれまでつくりあげてきた、地域の基幹病院(急性期病院)として医療提供体制及び診療実績、並びに今後の医療需要増大の動きを踏まえ、急性期医療を一層推進する。
- ・それに向けて、地域医療連携(患者の紹介・逆紹介)の推進、救急医療の強化を図り、地域医療機関との機能分化・連携の体制づくりを推し進める。

○公的医療機関として政策医療等の推進

- ・地域の医療需要とともに、構想区域の医療計画(5疾病・5事業及び在宅医療等)を踏まえ、公的医療機関として政策医療等の推進に努める。特にがん診療、周産期医療、救急医療、災害医療の拡充を図る。

※構想区域(区西南部)全体では、MDC15(妊娠、分娩等)の患者は、2025年度に向けて増加は見込まれないものの、当院が母体救命対応周産期母子医療センターであり、分娩等で安定的にニーズの高い状況が続いていることも踏まえ、当院の柱の一事業として推進していく。

○緩和ケアへの対応

- ・がん患者の増加が今後も見込まれる中、構想区域内で唯一緩和ケア病棟を持つ病院として、その特性を生かし、がん等の緩和ケアを推進する。

2. 今後の方針

②今後持つべき病床機能

③その他見直すべき点

②今後持つべき病床機能

○高度急性期・急性期

- ・現行の医療提供体制を軸に、急性期医療を推進するとともに、公的医療機関として担うべき政策医療等の機能を発揮するために、高度急性期、急性期の病床を維持する。

○慢性期

- ・今後、緩和ケアを推進していくため、緩和ケア病床を維持する。

③その他見直すべき点

○がん総合診療センター（仮称）の設置

- ・今後、構想区域において、がん患者数が増加することを踏まえ、がん総合診療センター（仮称）を設置し、当院の各診療科の高い専門性ととも、総合病院としての強みを生かして、がん診療を推進していく。

○緩和ケア病床拡充の検討

- ・今後の緩和ケアのニーズも見据えて、将来、緩和ケア病床を拡充することも検討する。

3. 具体的な計画

- ①4機能ごとの病床のあり方について
- ②診療科の見直しについて
- ③その他の数値目標について

3. 具体的な計画

- ①4機能ごとの病床のあり方について
- ②診療科の見直しについて

①4機能ごとの病床のあり方について

〈今後の方針〉

| | 現在 (平成28年度病床機能報告) | | 将来 (平成37年度(2025年度)) |
|-------|----------------------|---|------------------------|
| 高度急性期 | 320床 | → | 320床 |
| 急性期 | 370床 | | 370床 |
| 回復期 | - | | - |
| 慢性期 | 18床 | | 18床 |
| (合計) | 708床 | | 708床 |

〈年次スケジュール〉

| | 取組内容 | 到達目標 | (参考) 関連施策等 |
|---------------|--------------------------|------------------------------------|---|
| 2017年度 | ○合意形成に向けた協議 | ○自施設の今後の病床のあり方を決定(本プラン策定) | <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block; transform: rotate(-90deg); transform-origin: left top;">2年間程度で集中的な検討を促進</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block; transform: rotate(-90deg); transform-origin: left top;">東京都高齢者保健福祉計画(第7期)</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block; transform: rotate(-90deg); transform-origin: left top;">東京都保健医療計画(第7次)</div> |
| 2018年度 | ○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討 | ○地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る | |
| 2019年度～2020年度 | | | |
| 2021年度～2023年度 | | | |

②診療科の見直しについて

現時点では、見直しを予定していない。

3. 具体的な計画 ③その他の数値目標

医療提供に関する項目

【医療提供に関する項目(2025年度数値目標)】

| | 2025年度(平成37年度) 数値目標 | 算式等 |
|---------|------------------------|--|
| 病床稼働率 | 90%以上 | $(\text{入院患者延数} \div (\text{実働病床数} \times \text{診療実日数})) \times 100$ |
| 紹介患者数 | 24,200人以上 | 他院からの紹介状をもって当院を受診した患者の数(年間) ※平成28年度実績から5%増を目安に設定 |
| 逆紹介患者数 | 14,000人以上 | 他院に逆紹介した(診療情報提供書を算定した)患者の数(年間) ※平成28年度実績から5%増を目安に設定 |
| 救急車受入件数 | 6,000件以上 | 年間の救急車受入件数 ※平成28年度実績から5%増を目安に設定 |

3. 具体的な計画 ③その他の数値目標

経営に関する項目

【経営に関する項目(2025年度数値目標)】

| | 2025年度(平成37年度) 数値目標 | 算式等 |
|-----------------------------------|------------------------|--|
| 人件費率 | 52%以下 | $(\text{給与費} \div \text{収益的収入}) \times 100$ |
| 医業収益に占める人材育成にかかる費用 (職員研修費等)の割合 | 0.3%以下 | $(\text{研究研修費} \div \text{医業収益}) \times 100$ |

4. その他

(当院の主な活動)

- 主要疾患に関する取組み等
- 地域医療に関する取組み等
- 国際医療に関する取組み等
- 人材の育成・確保に関する取組み等

4. その他(当院の主な活動)

主要疾患に関する取組み等

【がん その1】

○地域がん診療連携拠点病院

地域がん診療連携拠点病院に指定されており、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の構築、がん患者に対する相談支援及び情報提供等を行っている。医療従事者に対しては、緩和ケア等も含め研修機会を設けている。

○がん相談支援センター

がんに関して看護師が中心となって、無料相談を実施している(院内外問わず、誰でも相談できる)。がん患者学セミナーやおしゃべりサロンも、月1回程度で行っている。

(実績)

| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|---------------|------------|
| 悪性腫瘍手術 | 1, 718件 |
| 病理組織標本作製 | 9, 148件 |
| 術中迅速病理組織標本作製 | 423件 |
| 放射線治療 | 6, 340件 |
| 化学療法 | 13, 891件 |
| がん患者指導管理料1及び2 | 218件 |
| 抗悪性腫瘍剤局所持続注入 | 2, 072件 |



がん相談支援センター

4. その他(当院の主な活動)

主要疾患に関する取組み等

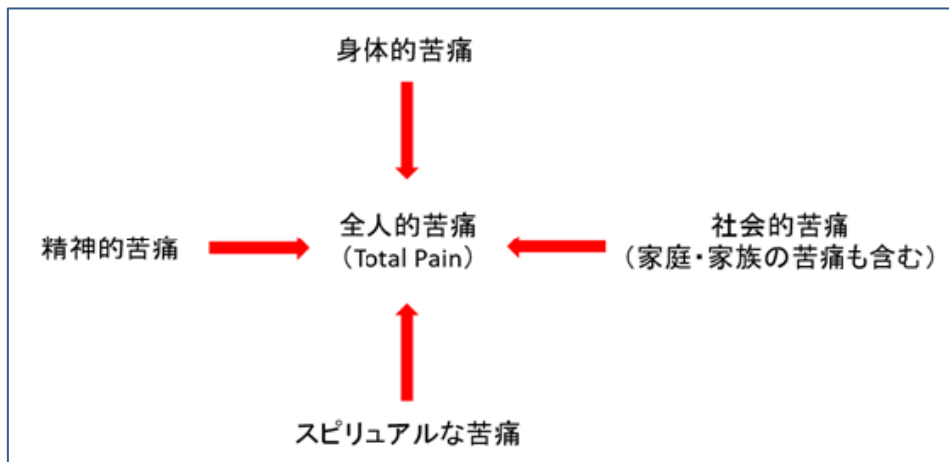
【がん その2】

○がんのプランニングサポート外来

がんと診断された患者さんを対象に今後の治療に関する意思決定を緩和腫瘍内科医が窓口となり適切な部署と連携して支援している。患者や家族のニーズを聞いた上で、遺伝子異常に応じた治療や免疫療法などを含む積極的な治療から副作用ケア、緩和医療などの現況を説明し、患者や家族の意思決定をサポートしている。

○カンサーボードの実施(医療従事者向け)

手術、放射線及び化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師、その他の専門を異にする医師等によるがん患者の症状、状態及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンス(カンサーボード)を実施している。



がんのプランニングサポート外来

当院では遺伝子異常に応じた分子標的薬による治療法(プレジジョン・メディシン)や免疫療法の相談、早期からの緩和医療、治療の意思決定支援、治療による有害事象対策、適切な化学療法の継続まで幅広く対応するがんのプランニングサポート外来を行っている。



医療従事者向け がん治療セミナー

医療従事者向けに最新の海外学会報告から在宅医療など幅広くがん治療に関連した内容の勉強会を定期的(年に4~5回)に施行している。毎回30~50名程度の内部・外部の医療関係者が参加している。

【脳卒中】

東京都脳卒中急性期医療機関に指定されている。特に重症な患者の治療に関しては救急科と連携し、救命救急センターおよび脳卒中集中治療室(SCU)での急性期治療を行っている。

平成21年8月から脳血管内治療専門医が赴任し、血管内治療センターを開設している。

(実績)

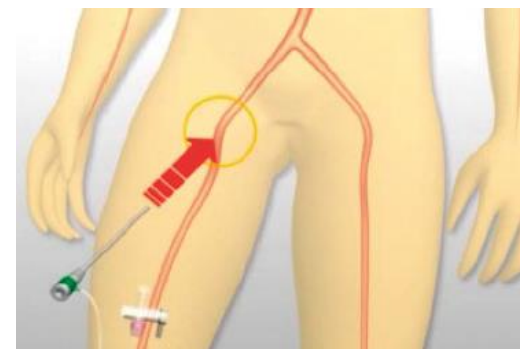
| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|-----------|------------|
| 超急性期脳卒中加算 | 7件 |
| 脳血管内手術 | 66件 |

日本赤十字社医療センター脳神経外科の特色



脳血管内治療の推進

当院ではメスを使わないで脳血管の手術を行うことができる「脳血管内治療」を積極的に取り入れている。



血管へのカテーテル挿入(イメージ)
 (提供:ポストン・サイエンティフィック ジャパン)

【急性心筋梗塞】

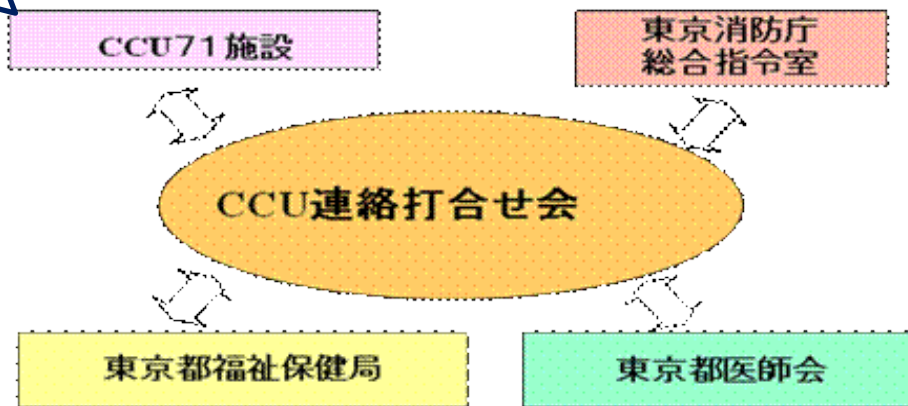
東京都CCUネットワーク加盟施設であり、救急車を積極的に受け入れている。狭心症や心筋梗塞に対する冠動脈インターベンション(PCI)治療を多数行っているが、患者には糖尿病や高血圧症などの生活習慣病のケースも多く、また、脳や腎臓などの他の臓器に隠れた問題を抱えているケースも多いことから、一人一人の患者に合わせて、総合病院の利点を生かして他科と連携しながら治療を行っている。

(実績)

| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|-----------|------------|
| 経皮的冠動脈形成術 | 305件 |

【東京都CCUネットワーク(概要図)】

当院は当該ネットワークの
加盟施設



出典: 東京CCUネットワーク公式Webサイト

【糖尿病】

糖尿病内分泌科を設置し、医師、糖尿病看護認定看護師、糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・健康運動療法士、医事職員で構成される「糖尿病ケアチーム」による対応を推進している。

院内スタッフに対し、糖尿病患者が安全に安心して外来通院や入院治療ができるよう、勉強会を通して知識普及に努めており、患者や家族に対しては「糖尿病教室」「患者会活動」を通し、糖尿病療養に必要な知識や技術、仲間づくりの場を提供している。

(実績)

| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|----------|------------|
| 糖尿病患者数 | 939人 |
| 糖尿病教育入院数 | 70人 |



糖尿病ケアチーム



糖尿病教育入院 医師による講義

【精神疾患】

当院は精神疾患にかかる入院病床を有しないが、メンタルヘルス科において、他科の患者のメンタルヘルス・ケアを行っている。外来患者の診察・治療を行うとともに、入院患者のメンタルヘルス・ケアにも対応している。

メンタルヘルス科の治療は薬物療法だけではなく、カウンセリングも推進している。当院では5名以上の常勤臨床心理士を配置し、メンタルヘルス科だけではなく、他科と診療現場で密接な連携を行いながら、体の病気そのものだけではなく、それにまつわる悩みや不安の解消を目指し、トータル・ケア(全人的ケア)の実現に重点を置いている。

(特色)

| | |
|------------------------|--|
| 他科との診療連携 | 平成27年度から、多職種連携の強化による一層きめ細やかなケアの提供を目指し、「精神科リエゾンチーム」の活動に取り組んでいる。 |
| がん治療支援チーム (緩和ケアチーム) | 地域がん診療連携拠点病院としてがん診療に重点を置く当院では、「緩和ケア病棟」を有するほか、他の病棟に入院中のがん患者に対しても、身体の痛みや気持ちのつらさを和らげるケアを、緩和ケア科医師、メンタルヘルス科医師、専門看護師、薬剤師、臨床心理士など多職種で構成される「がん治療支援チーム(緩和ケアチーム)」により行っている。 |
| 心理相談 | 臨床心理士による心理検査・知能検査や心理相談(カウンセリング)を行っている。 |

(実績)

| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|---------------|------------|
| 外来延患者数 | 9,778人 |
| 新外来患者数 | 417人 |
| 入院中他科連携診療延患者数 | 339人 |

【救急医療 その1】

平成20年10月31日に「東京都救命救急センター」として認可された(東京都内では23番目に認可・開設)。

これにより、当院が提供していた一次、二次救急医療の上に「三次救急医療」が追加するかたちとなり、心肺停止や重症外傷、敗血症などの重症病態患者が当センターに救急搬送されてくるようになった。

救命救急センターの認可・開設に伴い、診療の3本柱「救急診療・がん診療・周産期診療」が整い、救命救急センター稼働から半年を経た平成21年3月25日には救急診療と周産期診療の協働により「東京都母体救命搬送システムの基幹病院(スーパー総合周産期センター)」となり、当院の診療の2つの柱(周産期・救急医療)を活かした体制が確立された。

さらに平成22年6月には地域医療への医療連携の充実を目指した「救急医療の東京ルール:地域救急医療センター構想」への区西南部地域・幹事病院としての参画をしている。

救急患者数の実績は若干の変動はあるものの、年間25,000人超で推移している。



救急搬送の応需



救命救急センター



集中治療室(EICU)

4. その他(当院の主な活動)

地域医療に関する取組み等

【救急医療 その2】

(実績)

| | 総受診数 | 救急搬送数 (応需率) | Hotline数 (応需率) ※1 | 東京ルール |
|--------|--------|---------------|-------------------|--------|
| 2003年度 | 26,528 | 4,742 | | |
| 2004年度 | 28,508 | 5,270 | | |
| 2005年度 | 27,105 | 4,898 | | |
| 2006年度 | 25,001 | 6,701 | | |
| 2007年度 | 24,110 | 6,433 | | |
| 2008年度 | 23,500 | 6,153 | 246 ※2 | |
| 2009年度 | 24,876 | 5,735 | 633 | |
| 2010年度 | 24,575 | 7,041 | 802 | 293 ※3 |
| 2011年度 | 22,330 | 5,933 | 770 | 168 |
| 2012年度 | 22,528 | 5,783 | 716 | 199 |
| 2013年度 | 28,724 | 5,493 | 621 | 187 |
| 2014年度 | 25,833 | 5,194 (77.2%) | 640 (83.6%) | 153 |
| 2015年度 | 26,356 | 5,716 (81.4%) | 535 (80.5%) | 143 |
| 2016年度 | 26,768 | 5,692 (77.8%) | 536 | 130 |

※1 東京消防庁選定による3次救命対応依頼応需数

※2 2008年10月31日に救命救急センター稼働のため 10/31～翌年3/31

※3 2010年6月28日より運用開始のため 6/28～翌年3/31



| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|--------|------------|
| 緊急手術件数 | 539件 |

【災害医療 その1】

○災害対応体制の整備

東京都地域災害拠点病院の指定を受け、また、東京DMAT指定病院となっている。

阪神・淡路大震災を機に、日赤の救護活動は大きく幅を広げ、超急性期の医療救護を担う「DMAT」の養成や、災害時の「こころのケア」などが始まり、日赤本社直轄の「本社救護班」を擁する医療施設として、超急性期から亜急性期・慢性期まで、災害のあらゆるフェーズに対応できる救護要員の育成に積極的に取り組んでいる。

また、国内の災害救護を専門業務とする「国内医療救護部」を全国で唯一設置している赤十字病院として、赤十字の多様な救護活動をリードしている。

(実績) <災害医療にかかる要員等>

| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|------------|------------|
| 救護員 | 241人(※1) |
| 常備救護班数 | 26班(※2) |
| こころのケア指導員 | 13人 |
| コーディネートチーム | 1チーム(6人) |

※1 赤十字救護班:194人、日本DMAT:11人、東京DMAT:36人

※2 赤十字救護班:24班、日本DMAT:1班、東京DMAT:1班



<災害救護派遣実績等>

| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|------------|-----------------|
| 医療救護活動 | 7件(熊本地震災害:20名) |
| こころのケア | 6件(熊本地震災害:3名) |
| 病院支援活動 | 8件(熊本地震災害:7名) |
| DMAT参加実績 | 2件(東京DMAT2隊:4名) |
| 自治体主催の訓練参加 | 2件(※1) |
| 院内訓練実施数 | 31件(※2) |

※1 渋谷区氷川地区防災訓練:5名、渋谷区緊急医療救護所運営シミュレーション:4名

※2 部署訓練:28件、被災状況報告訓練:1件、災害対策本部訓練:1件、
管理学習会シミュレーション訓練:1件



当院屋上ヘリポートでの患者受入訓練

【災害医療 その2】

○東日本大震災をはじめとする災害への対応

2011年3月に発生した東日本大震災では、災害発生後の100分後にはDMATを福島市へ、さらにその1時間後には救護班要員14名を含むdERU(domestic Emergency Response Unit:国内型緊急対応ユニット)を石巻市へ派遣したのを皮切りに、救護班、こころのケア要員、病院支援要員など、延べ175名の職員を派遣した。

当時の院長 幕内雅敏の提唱した「市民を守る、子供を守る、職員を守る」という基本理念の下、遠い被災地だけでなく、東京に避難された方々や、当院に入院していた赤ちゃんにも安心と安全を提供した。

東日本大震災(2011年)

伊豆大島台風災害(2013年)



石巻赤十字病院の正面玄関前に救護用テントを展開



避難所の一角に救護所を開設し、被災者の診療を行う



こころのケア要員の派遣

【災害医療 その3】

○地域関係機関との協働による防災訓練等の実施

地域関係機関の防災訓練等にも積極的に参加している。

平成29年9月2日・3日に代々木公園にて開催された「渋谷区総合防災訓練 渋谷区防災フェス2017」(主催:渋谷防災2017 実行委員会、共催:渋谷区)に、救護班(7名)とボランティア職員(42名)が参加し、日赤救護所(dERU)及び東京DMAT車等を使用した訓練を行った。地域住民の他、渋谷区医師会長、区防災担当者も来場された。

渋谷区医師会と当院救護班との協働により救命デモンストレーション等を行い、地域住民をはじめ、多くの来場者に防災に関心をもっていただくとともに、災害時における当院の機能・役割について認識いただいた。

・渋谷区総合防災訓練 渋谷区防災フェス2017(平成29年9月2日・3日)【当院訓練等にかかる来場者数:740名】



日赤救護所(dERU)の展開



救命デモンストレーション



応急手当の体験



子供救護服の体験



東京DMATの見学
車いすの搬送体験

【周産期医療 その1】

○母体救命対応総合周産期母子医療センター(スーパー総合周産期センター)

重篤な疾患により緊急に母体救命処置が必要な妊産褥婦が発生し、近くの救急医療機関等で受け入れが決まらない場合に、必ず患者を受け入れ、院内の救命救急センターをはじめ各診療科と密接な連携をとりながら治療を行っている。

○周産母子・小児センター

妊娠・出産・育児の過程において、母子の健康を総合的に支援するために「周産母子・小児センター」が組織されている。産科・新生児科・小児科・小児保健・小児外科が緊密な連携をとり、出生前から小児期まで母子にやさしく、かつ高度な医療を提供している。

○24時間365日の対応

夜間休日においても常勤スタッフが交替で診療にあたっている。また、母体救命対応総合周産期母子医療センターとして、他の出産施設または自宅で妊娠中や出産時に異常が起きた場合に、当院への搬送入院を受け入れている。母体救命搬送では救命救急センター(EICU)、周産期搬送では母体・胎児集中治療室(MFICU)に入院して治療を受ける。さらに、早産、低出生体重児や異常をもつ赤ちゃんを診療する新生児集中治療室(NICU)・治療回復室(GCU)があり、新生児専門のスタッフが生まれてきた新生児に対応している。

(実績)

| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|--------------------------|------------|
| 分娩件数(正常分娩、帝王切開を含む、死産を除く) | 3,084件 |
| 帝王切開率(※) | 24.4% |
| 緊急母体搬送受入件数 | 182人 |

※算式:(帝王切開件数÷分娩件数)×100



NICU(新生児集中治療室)

4. その他(当院の主な活動)

地域医療に関する取組み等

【周産期医療 その2】

○オープンシステム・セミオープンシステム

地域の産科診療所・助産院と連携し、妊婦健診は近くの診療所・助産院で、出産は設備とスタッフの整った当院で行っている。診療所の医師、助産院の助産師が出産に立ち会い、当院の医師、助産師と共同で母子を支援することもある。

○赤ちゃんにやさしい病院

WHO(世界保健機関)、UNICEF(国連児童基金)から「赤ちゃんにやさしい病院」(Baby Friendly Hospital)にも認定されている(平成12年8月、都内で初めて認定された)。母と子にやさしい病院を目指して、「新しい生命の誕生を迎える家族」の主体性を尊重する支援型産科医療を行っている。



助産師による母乳相談



乳幼児健診



都内で初めて
「赤ちゃんにやさしい病院」に認定

4. その他(当院の主な活動)

地域医療に関する取組み等

【小児医療】

小児の救急疾患、急性期疾患を主体にどのような疾患にも、いつでも対応できるよう体制を整え、患者に最善の医療を提供するよう努めている。

救急外来(診療時間外、全休日・全夜間)は小児科医が1~2名当直し診療にあたっている。入院は小児専用病棟での入院となり、複数の主治医によるチーム医療を行うとともに小児看護に習熟したスタッフがケアをしている。

小児保健部では医師、看護師、助産師、管理栄養士、臨床心理士の協働で小児の健康診断、予防接種、心理相談、育児支援を行っている。

(実績)

| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|----------|------------|
| 小児救急受入実績 | 7, 145件 |
| 小児手術件数 | 219件 |

予防接種



予防接種時の診察

乳幼児健診



看護師による問診

食育



管理栄養士による個別栄養指導

4. その他(当院の主な活動)

地域医療に関する取組み等

【在宅医療】

訪問看護ステーションを通じて、在宅医療に取り組んでいる。24時間の電話相談と必要に応じて訪問対応を行っている。

赤十字の人道・博愛に基づき、小児から高齢者までその人らしく住み慣れた家で家族と一緒に安心して生活できるように療養の支援を行っている。

(実績)

| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|--------|------------|
| 利用者の状況 | 465人 |
| 訪問件数 | 219件 |



創傷ケア



呼吸器ケア



訪問看護



ターミナルケア(看取りの看護)



がんのケア



小児のケア

4. その他(当院の主な活動)

地域医療に関する取組み等

【地域医療連携】

平成24年9月28日付で「地域医療支援病院」の承認を受け、地域の医療機関と連携・協力関係を推進し、地域全体の医療の質の向上と効率化を図っている。

(実績)

| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|--------|------------|
| 紹介患者数 | 22,985人 |
| 逆紹介患者数 | 13,309人 |



地域医療連携関係スタッフ

看護師、医療ソーシャルワーカー、事務員の多職種により地域医療機関との連携に関する業務に対応している

【患者・地域住民への支援等 その1】

地域包括ケアシステムを念頭に、地域住民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される中で、当院は区西南部の医療圏において中心的な役割を果たしている。

○患者支援センター

平成29年3月から開設。多種多様な患者ニーズにきめ細かく対応できるよう多職種の職員が協働し、医療・看護、栄養、薬にかかる相談に、各分野のエキスパートが対応している。外来受診から入院、在宅移行に向けた支援まで総合的に取組み、患者支援を推進している。

(実績)

| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|------|------------|
| 相談件数 | 15,546件 |

患者支援センター



4. その他(当院の主な活動)

地域医療に関する取組み等

【患者・地域住民への支援等 その2】

○患者・地域住民に向けた健康増進にかかるイベント

患者・地域住民に向けて、各種公開イベント(がん等各種疾患のセミナー、オープンホスピタル等)を開催し、健康増進の機会や交流の場を提供し、地域包括ケアシステムの基盤づくりを推進している。

事例1:がん患者学セミナー

「がん患者学セミナー」は、がんの治療を受けている患者、家族並びに地域住民を対象に、がんになってからの生活、がんの予防など、日々の暮らしの中でできる工夫をレクチャーしている(参加費無料)。

(平成29年度開催内容)

第1回 4月27日「知って役立つ療養生活上の知識」

講師:腰原麻衣子氏(がん看護専門看護師)

第2回 5月22日「がん化学療法を受ける方のアピランスケア」

講師:柴田基子氏(がん化学療法看護認定看護師)

第3回 6月27日「こころと体のほぐし方」

講師:矢吹真理氏(臨床心理士)

第4回 7月28日「音楽を楽しもう」

講師:新倉晶子氏(音楽療法士)

第5回 9月29日「がん治療とむくみ」

講師:鏡知子氏(がん看護専門看護師・リンパドレナージセラピスト)

事例2:オープンホスピタル(平成28年11月12日開催)



手術着を着て手術体験



ホスピタルツアー(手術室見学)



臨床検査技師による血液検査の説明

4. その他(当院の主な活動)

地域医療に関する取組み等

【救急法等の普及】

日本赤十字社は、「人道」という赤十字の使命に基づき、「救急法」などの講習を実施し、生命と健康を守るための具体的な知識と技術を普及している。

当院においても、日本赤十字社東京都支部と協働のもと、救急法等の普及を推進している。

救急法等の普及による健康増進の取組みや地域住民との交流は、地域包括ケアシステムの基盤づくりを進めていくうえでも有効であると考えられる。

| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|-------------------------|------------|
| 救急法講習参加者数 | 74名 |
| 幼児安全法講習参加者数 | 10名 |
| こころのケア(※)講習参加者数〔当院職員対象〕 | 52名 |

※災害時における被災者などを対象としたものであること。



4. その他(当院の主な活動)

地域医療に関する取組み等

【医師等の不足している地域の支援】

日本赤十字社は、医師・看護職員の確保が困難なへき地等に対する医療提供も積極的に取り組んでいる。

当院においても、医師等の不足している地域(他の赤十字病院)に職員を派遣し、地域医療の確保を積極的に支援している。

○医師の派遣(平成24年度～平成28年度)

| | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|---------|-------------|------------|------------|------------|------------|
| 派遣先・医師数 | 北見赤十字病院 10人 | 北見赤十字病院 7人 | 北見赤十字病院 7人 | 北見赤十字病院 6人 | 浦河赤十字病院 6人 |
| 派遣医師数合計 | 10人 | 7人 | 7人 | 6人 | 6人 |

○看護職員数の派遣(平成24年度～平成28年度)

| | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|-----------|--------------------------|--|--|------------|--------|
| 派遣先・看護職員数 | 山梨赤十字病院 2人 秦野赤十字病院 2人 | 山梨赤十字病院 2人 秦野赤十字病院 2人 釧路赤十字病院 1人 | 山梨赤十字病院 1人 秦野赤十字病院 1人 浦河赤十字病院 1人 | 浦河赤十字病院 1人 | - |
| 派遣看護職員数合計 | 4人 | 5人 | 3人 | 1人 | - |

【感染症対策】

エイズ拠点病院としてHIV/AIDS(エイズ)診療、東京都結核収容モデル病院としての結核診療、また東京都感染症協力医療機関として新型インフルエンザ等の新たな感染症への対策/対応可能な病院としての機能を有し、第二種感染症指定医療機関の指定も受けている。

さらに感染管理室によりICT(Infection Control Team: 感染対策チーム)を結成し、MRSA(メチシリン耐性ブドウ球菌)など院内感染として問題となるいわゆる耐性菌の低減や感染予防に努めている。

(扱う疾患)

マイコプラズマ肺炎、レジオネラ肺炎、肺炎球菌性肺炎、誤嚥性肺炎、肺結核、肺非結核性抗酸菌症、クリプトコッカス症、肺アスペルギルス症、ニューモシスチス肺炎、HIV/AIDS、梅毒、伝染性単核症、インフルエンザ、麻疹(成人)、水痘(成人)、壊死性筋膜炎、髄膜炎、感染性心内膜炎、デング熱、腸チフス、マラリア



ICT(感染対策チーム)

(医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務員の多職種で構成)



ICT(感染対策チーム)による院内ラウンド

4. その他(当院の主な活動)

国際活動に関する取組み等

【国際救援・開発協力等】

日本赤十字社は、赤十字国際委員会(ICRC)、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)、各国赤十字社・赤新月社のネットワークのもと、海外における紛争の犠牲者や災害の被災者の救援を行う国際救援活動、開発途上国の保健衛生状態の改善などを行う開発協力事業などの人道的活動を展開している。

当院は、日本赤十字社において「国際医療救援拠点病院」として指定を受け(当該拠点病院は全国5施設)、医師、看護師、助産師、薬剤師や事務職員らの多職種で構成される国際医療救援部を中心に、国際救援・開発協力等の各事業において幅広く活躍している。

| (実績) | 時期(2014年度～2016年度) | 事業内容 | 派遣職員 |
|------|-------------------|-----------------|----------------------|
| | 2016年7月～12月 | フィリピン保健医療支援事業 | 助産師1名 |
| | 2016年2月～7月 | フィリピン保健医療支援事業 | 看護師1名 |
| | 2015年10月～2016年3月 | ウガンダ北部医療支援事業 | 医師1名 |
| | 2015年4月～8月 | ネパール地震救援事業 | 看護師2名、薬剤師1名、臨床工学技士1名 |
| | 2014年9月～12月 | ウガンダ北部医療支援事業 | 薬剤師1名 |
| | 2014年6月～7月 | シリア難民救援事業(ヨルダン) | 薬剤師1名 |
| | 2014年6月～11月 | ウガンダ北部医療支援事業 | 看護師1名 |
| | 2014年5月～2015年5月 | フィリピン中部台風復興支援事業 | 看護師1名 |

北イラク・クルド地域における
戦傷外科実地研修
(2013年4月～6月)



外科手術を担当する医師

フィリピン中部台風救援事業
(2014年1月～2月)



緊急対応ユニット(ERU)
で活動する看護師

ウガンダ北部医療支援事業
(2014年9月～12月)



個別配薬システムの導入
に対応する薬剤師

フィリピン保健医療支援事業
(2016年7月～12月)



手洗い指導を行う看護職員

4. その他(当院の主な活動)

国際活動に関する取組み等

【研究事業(衛生プログラムの開発・普及等)】

研究事業は、日本赤十字社の国際活動の中の医療・保健分野における救援・開発協力が対象で、主なものとして災害医療、難民救援医療、熱帯病治療、栄養プログラム、母子保健、衛生プログラムなどがある。

その中でも国際赤十字の保健プログラムの日本国内への導入は、本社直轄施設としての当院の重要な役割となっている。

(事業例)

| 事業 | 内容 |
|-------------------|--|
| HIV/AIDS事業 | 当院はアジア赤十字・赤新月社HIV/AIDSネットワークにおける日赤の代表を務めており、日赤は同ネットワークにおけるマネージメント・チームの一員としてアジア地域のHIV/AIDS活動を支援するとともに、その経験と知識を導入して青少年赤十字活動にHIV/AIDSのピア・エデュケーションを普及している。 |
| こころのケア(心理社会的支援)事業 | 当部は日赤の代表として国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)の心理社会的支援センターのロースター・メンバーとして国際赤十字の心理社会的支援を国内に導入し、日赤のこころのケア事業を進めている。また、東日本大震災でのこころのケア活動の経験や知識を国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)に提供している。 |
| メドログ(MedLog) | メドログはメディカル・ロジスティクスの略で、医薬品等の医療に必要な物品の購入、輸送、保管、管理を行うことを意味し、国際救援において医療チームが活動をするうえで重要であり、裏方的な分野である。当院の薬剤師を日本赤十字社の代表として国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)のメドログの発展に貢献している。 |

4. その他(当院の主な活動)

人材の育成・確保に関する取組み等

【臨床研修】

臨床研修指定病院、臨床修練指定病院の指定を受けている。当院に臨床研修のカリキュラムとして特徴的なのは、救急医療、災害救援、他の赤十字病院との相互研修、地方の赤十字病院への診療支援などを含んでいる。

平成28年度の臨床研修病院における
初期臨床研修 第一希望者数

44名(定員18名)
〈全国1,027病院のうち 18位〉

出典:ケアレビュー 病院情報局「2016年度
初期臨床研修人気病院ランキング」
(医師臨床研修マッチング協議会の公表資料
を病院別に集計して作成されたもの)



研修医に選ばれる病院

赤十字精神のもと、地域の中核病院として高機能・高品質な急性期医療を推進していること、また、当院の医療スタッフに豊富な研修指導経験があることを背景に、当院に対する初期研修の希望者は多い状況にある。

(実績)

| 項目 | 平成28年度年間実績 |
|------------|------------|
| 卒後臨床研修医受入数 | 30人 |

【看護師教育 その1】

赤十字が125年にわたる看護教育の中で一貫して大切にしてきたのは、高い倫理観と看護実践力である。赤十字は、傷ついた人、より弱い人へ向けるまなざしを持って人々の尊厳を守るために行動し、組織の一員として協力して職務を遂行できる人材を育成してきた。

現在でもこの基本姿勢は変わっておらず、「その人が健康に生きる力を引き出すことを支援し、看護の独自性を追求し、創造性の高いケアを提供します」の理念のもとに、専門職として根拠に裏付けられた高度な看護実践力のほか、広く深く自ら学び、学びを分かち合う教育力、倫理的に考え発信できる研究力、さらには自らを律し他と協働していく管理力を兼ね備えた看護者を育成している。



【看護師教育 その2】

○赤十字施設のキャリア開発ラダー(実践者ラダー)

平成14年、全国の赤十字病院に先駆けて実践者ラダーシステムをスタートさせた。このラダーは、組織の理念に基づいた赤十字の看護の質向上と専門職としての看護師の職務満足促進を主な目的としている。

看護実践者のキャリア開発ラダーは、5段階の到達目標(レベルⅠ～Ⅴ)を設定し、目標を達成するための教育研修と一対になっており、職場の上司や先輩の支援を受けながら、段階的に取り組むことができる。

また、平成21年度からは、看護管理者や国際救援活動に参加する看護師のキャリア開発のための教育も整備し、管理者ラダーは平成22年度から、国際ラダーは平成24年度から各施設での運用を始めている。

赤十字施設のキャリア開発ラダー

| | 看護実践者 | 看護管理者 | 看護教員 | 国際活動要員 |
|-----|--|-------|------|--------|
| V | 病院単位で活動できる者 | 管理Ⅳ | 教員Ⅳ | 国際Ⅶ |
| IV | 看護部単位で活動できる者 | 管理Ⅲ | 教員Ⅲ | 国際Ⅵ |
| | | 管理Ⅱ | 教員Ⅱ | 国際Ⅴ |
| | | 管理Ⅰ | 教員Ⅰ | 国際Ⅳ |
| III | 部署単位で活動できる者(リダーシップ) 部署の教育担当者 臨地実習指導者 救護班登録者(国内救護) | | | 国際Ⅲ |
| II | 自立して看護活動ができる者(部署内) 実地指導者 | | | 国際Ⅱ |
| I | 指導や助言を得ながら看護活動ができる者 | | | 国際Ⅰ |

【助産師教育】

当院付属施設の助産師学校の卒業生は3,000名を超え(平成29年3月末現在)、優れた人材を輩出している。

建学の精神である赤十字の理念を基盤にして社会における助産師の役割を認識するとともに女性とその家族の生涯にわたる健康を支援できる基礎的能力を修得し、広く社会に貢献できる人材育成を目指している。

本校は、日本赤十字社医療センターに隣接する日本赤十字看護大学内にあり、恵まれた教育環境の中で、学生は助産師の専門分野である「助産とそのケア」を中心に学習している。



当院の師長・スタッフを講師とする講義



発表やプレゼンテーションをしながら、健康教育の技法も学ぶ



教師の指導のもと、ファントム(人体模型)を使って技術演習を繰り返し行う

4. その他(当院の主な活動)

人材の育成・確保に関する取組み等

【認定医・専門医・指導医等 有資格者数(平成29年4月1日現在)】

| 学会名 | 区分 | 有資格者数 |
|------------|-----|-------|
| 日本内科学会 | 認定医 | 36名 |
| | 専門医 | 24名 |
| | 指導医 | 9名 |
| 日本消化器病学会 | 専門医 | 13名 |
| | 指導医 | 4名 |
| 日本小児科学会 | 専門医 | 15名 |
| 日本血液学会 | 専門医 | 9名 |
| | 指導医 | 5名 |
| 日本消化器内視鏡学会 | 専門医 | 8名 |
| | 指導医 | 4名 |
| 日本循環器学会 | 専門医 | 4名 |
| 日本呼吸器内視鏡学会 | 専門医 | 3名 |
| | 指導医 | 1名 |
| 日本神経学会 | 専門医 | 3名 |
| 日本腎臓学会 | 専門医 | 3名 |
| 日本アレルギー学会 | 専門医 | 3名 |

| 学会名 | 区分 | 有資格者数 |
|------------------------------------|---------------|-------|
| 日本外科学会 | 専門医 | 20名 |
| | 指導医 | 9名 |
| 日本麻酔科学会 | 認定医 | 3名 |
| | 専門医 | 10名 |
| 日本呼吸器学会 | 指導医 | 8名 |
| | 専門医 | 8名 |
| 日本消化器外科学会 | 指導医 | 5名 |
| | 専門医 | 8名 |
| 日本脳神経外科学会 | 指導医 | 4名 |
| | 専門医 | 7名 |
| 日本整形外科学会 | 指導医 | 5名 |
| | 専門医 | 9名 |
| 日本肝臓学会 | 専門医 | 5名 |
| | 指導医 | 2名 |
| 日本大腸肛門病学会 | 専門医 | 3名 |
| | 指導医 | 3名 |
| 日本救急医学会 | 専門医 | 4名 |
| | 指導医 | 2名 |
| 日本胸部外科学会 日本心臓血管外科学会 日本血管外科学会 | 心臓血管 外科専門医 | 3名 |
| 日本乳癌学会 | 認定医 | 1名 |
| | 専門医 | 1名 |
| 日本小児外科学会 | 専門医 | 2名 |
| 日本胸部外科学会 日本呼吸器外科学会 | 呼吸器外科 専門医 | 1名 |

| 学会名 | 区分 | 有資格者数 |
|--------------|----------|-------|
| 日本産科婦人科学会 | 専門医 | 12名 |
| 日本周産期・新生児医学会 | 新生児専門医 | 5名 |
| | 母体・胎児専門医 | 5名 |
| | 指導医 | 1名 |
| 日本医学放射線学会 | 専門医 | 1名 |
| | 診断専門医 | 9名 |
| | 治療専門医 | 1名 |
| 日本透析医学会 | 専門医 | 5名 |
| | 指導医 | 3名 |
| 日本耳鼻咽喉科学会 | 専門医 | 4名 |
| 日本眼科学会 | 専門医 | 4名 |
| 日本超音波医学会 | 専門医 | 3名 |
| | 指導医 | 3名 |
| 日本人類遺伝学会 | 専門医 | 3名 |
| | 指導医 | 1名 |
| 日本病理学会 | 専門医 | 3名 |
| | 指導医 | 2名 |
| 日本核医学会 | 専門医 | 2名 |
| 日本生殖医学会 | 専門医 | 1名 |

4. その他(当院の主な活動)

人材の育成・確保に関する取組み等

【看護師の養成・教育(平成28年度年間実績)】

| 項目 | | | 平成28年度年間実績 | |
|---------------|------|---------------------|------------------|-------------------------------|
| 看護師の 養成・教育 | 基礎教育 | 赤十字関連施設 実習受け入れ | 日本赤十字看護大学 | 509名 |
| | | | 日本赤十字看護大学大学院 | 32名 |
| | | | 日本赤十字社助産師学校 | 40名 |
| | | 赤十字関連施設以外 実習受け入れ | 上智大学 | 36名 |
| | | | 聖路加看護大学 | 8名 |
| | | | 人間総合科学大学 | 1名 |
| | 継続教育 | 新人看護職員研修 | 研修事業参加実績 | 101名 |
| | | | 院外の新人看護師研修実施 | 23名 |
| | | | 新人看護師人数・離職率 | 入職101名(退職3名)・離職率2.97% |
| | | キャリア開発ラダー | 実践者ラダー認定者数 | I:324名、II:313名、III:20名、計:657名 |
| | | | 国際ラダー認定者数 | III:1名、IV:1名、計:2名 |
| | | | 管理者ラダー認定者数 | I:7名、II:1名、計:8名 |
| | | 看護管理者育成 | 管理研修修了者数 | ファースト:60名、セカンド:10名、サード:4名 |
| | | 専門看護師育成 | 専門看護師人数 | 9名 |
| | | 認定看護師育成 | 認定看護師人数 | 23名 |
| | | 学位取得支援 | 大学院修了者人数 | 51名 |
| | その他 | リソースナース育成 | 専門・認定看護師実習受け入れ人数 | 17名 |

4. その他(当院の主な活動)

人材の育成・確保に関する取組み等

【専門看護師・認定看護師等(平成29年4月1日現在)】

| | 資格 | 有資格者数 |
|--------------------|-----------|-------|
| 専門看護師(分野別) 【再掲】 | がん看護 | 5名 |
| | 家族支援 | 1名 |
| | 小児看護 | 1名 |
| | 地域看護 | 1名 |
| | リエゾン精神看護 | 1名 |
| | 合計 | 9名 |
| 認定看護師(分野別) 【再掲】 | 新生児集中ケア | 4名 |
| | 救急看護 | 3名 |
| | 皮膚・排泄ケア | 3名 |
| | 化学療法看護 | 2名 |
| | 感染管理 | 2名 |
| | 緩和ケア | 2名 |
| | 糖尿病看護 | 2名 |
| | 集中ケア | 1名 |
| | 小児救急 | 1名 |
| | 摂食・嚥下障害看護 | 1名 |
| | 透析看護 | 1名 |
| | 慢性呼吸器疾患看護 | 1名 |
| | 合計 | 23名 |
| 認定看護管理者 | | 4名 |



4. その他(当院の主な活動)

人材の育成・確保に関する取組み等

【質の高い看護提供(平成28年度年間実績)】

| 項目 | | | 平成28年度年間実績 | |
|--------------|----------------|----------|---------------------------|-----|
| 質の高い 看護提供 | 診療報酬 | 診療報酬関連研修 | 看護補助者推進研修受講者数 | 3名 |
| | | | 認知症研修受講者数 | 33名 |
| | | | 小児在宅支援研修受講者数 | 1名 |
| | | | 看護必要度研修受講者数 | 43名 |
| | 専門活動 | 看護協会会員数 | 430名 | |
| | 配置 (入院部門以外) | 外来看護師配置 | 129名(放射線、内視鏡、血液浄化の各部門を含む) | |
| | | 入院退院調整部門 | 18名 | |
| | 研究 | 学会発表件数 | 27名 | |
| | 執筆 | 雑誌投稿 | 26名 | |
| | 社会活動 | 講演 | 14名 | |





「人道・博愛」の赤十字精神を行動の原点として
治療のみならず健康づくりから
より健やかな生涯生活の維持まで
トータルでの支援サービスを提供します



日本赤十字社

日本赤十字社医療センター
Japanese Red Cross Medical Center